資料編

資料編　目　次

資料-１　大野城市の主要な文化財など ･････････････････････････････ 76

資料-２　アンケートの結果 ･･･ 82

資料-３　ヒヤリングの結果 ･･･109

資料１　大野城市の主要な文化財など

1	みずきあと 水城跡	664 年	下大利 3･4 丁目
		国指定特別史跡（昭和 28 年 3 月 31 日）	

概要

古代に唐（とう）と新羅（しらぎ）の軍事攻撃から太宰府を守るために造成された、土塁（どるい）と濠（ほり）の遺構です。長さ 1.2km、基底部幅 80m、高さ 14mに及びます（史跡指定面積 15ha）。

視点

2	しょうみずきあと 小水城跡	664 年	旭ヶ丘 1 丁目 3
		国指定特別史跡（昭和 49 年 8 月 10 日追加）	

概要

水城と同じ目的と構造で造られた短い土塁が、市内や周辺市に散在します。敵軍が西の山間部に回り込み､低い谷から侵入してくる可能性もあったので、地形に合わせた堤防がいくつか造られました。

視点

3	おおのじょうあと 大野城跡	665 年	大城山（四王寺山）
		国指定特別史跡（昭和 28 年 3 月 31 日）	

概要

水城が築造された翌年に、太宰府防衛の目的で築かれた日本最古の古代の山城です。土塁・石塁（せきるい）の内側には 6 群約 70 棟の建物が確認されています。

視点

4	せんだんのき センダンの木	1800 年代	瓦田 3 丁目 800
		市指定天然記念物（平成 6 年 3 月 18 日）	

概要

今も大野小学校の運動場にそびえ立っているのが、このセンダンの木です。高さ 9.8m、幹周り 2.5m、樹齢は 150 年から 200 年と推定されています。

視点

5	みかさのもり 御笠の森	建立年不明	山田 2 丁目
		市指定有形民俗文化財・天然記念物（平成 7 年 5 月 22 日）	

概要

次のような故事があります。「仲哀（ちゅうあい）天皇のお后である神功皇后（じんぐうこうごう）のかぶられていた笠が吹き飛ばされて、この森の木にひっかかったため、御笠の森というようになった」。

視点

6	やくしのもり 薬師の杜	建立年不明	牛頸 3 丁目
		市指定天然記念物（平成 7 年 5 月 22 日）	

概要

牛頸の畑の中にある薬師堂の境内が、この鎮守の森です。この薬師堂に祀（まつ）られているお薬師さんは、目の神様としてあがめられています。

視点

7	からやまじょうあと **唐山城跡**	1500 年代	乙金東三丁目 1263-1
		—	

概要

戦国時代（16 世紀）の山城で、大友氏の家臣、立花道雪が造らせた立花城の出城です。乙金区の北方、宇美町との境界、井野山頂上にあります。

視点

8	しんかわ **新川**	1750 年	錦町～筒井～瓦田
		—	

概要

江戸時代に建造された運河の跡で、現在は新川緑地公園になっています。千歳川（今の筑後川）の水を引いて、夜須、御笠を経て宰府川に合わせ、比恵川に通す計画でした。

視点

9	ふどうじょうあと **不動城跡**	1400 年代	牛頸 3 丁目 18
		—	

概要

平野台団地の北東の小高い山の上にあった戦国時代（15～16 世紀）の山城です。秋月種實の家臣、奈良原高初が築いたとされます。

視点

10	どうのもとこふん **胴ノ元古墳**	古墳後期	牛頸 2 丁目
		—	

概要

現在この古墳は、胴ノ元古墳公園内に特異な方法で保存されています。円形の盛土（墳丘）と、円弧を描く溝（周溝）を持つ直径 11mの円墳です。

視点

11	たけだけしょぞうもんじょ **竹田家所蔵文書**	1709 年	福岡県立図書館蔵
		県指定有形文化財（昭和 35 年 4 月 12 日）	

概要

県の指定を受けた文書は巻子（巻物）８巻と、貝原益軒著『筑前国続風土記』『黒田家譜』の各一揃です。巻子８巻には『貝原益軒先生筆蹟』全２巻が含まれ、益軒の書簡１７通が納められています。

視点

12	じんめんぼくしょどき **人面墨書土器**	奈良時代	歴史資料展示室（仲島遺跡・御笠川原出土）
		市指定有形文化財（平成 6 年 3 月 18 日）	

概要

表面に墨で人の顔が描かれた土器です。人面は疫病神を表現したものといわれ、病気の人が息を吹き込んだ土器を川や溝に流したと考えられています。

視点

13	かふ 貨布	5～23 年	歴史資料展示室（仲島遺跡出土）
		市指定有形文化財（平成 6 年 3 月 18 日）	

概要

仲島遺跡から出土した、中国「新」時代（紀元 8～25 年）の青銅製の貨幣です。篆書体（てんしたい）の文字で片面右側に「貨」、左側に「布」と鋳出されているので、こう呼ばれています。

視点

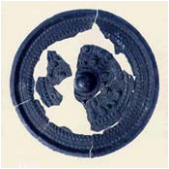
14	いどうしきかまど 移動式竈	古墳後期	歴史資料展示室（仲島遺跡出土）
		市指定有形文化財（平成 6 年 3 月 18 日）	

概要

仲島遺跡の大きな溝から出土した、古墳時代後期の調理用コンロです。高さ約 25 ㎝、スソ幅約 50 ㎝で、内側には黒いススが付着しています。

視点

15	さんかくぶちしんじゅうきょう 三角縁神獣鏡	古墳前期	歴史資料展示室（御陵古墳群出土）
		市指定有形文化財（平成 6 年 3 月 18 日）	



概要

邪馬台国の女王卑弥呼が中国から贈られたといわれる、古墳時代の銅鏡です。直径 21.9 ㎝で、縁の断面が三角形状になっており、神と獣の浮き彫りがほどこされているので、こう名づけられました。

視点

16	わどうろくねんめいへらがきすえき 和銅六年銘ヘラ書き須恵器	713 年	歴史資料展示室（ハセムシ窯跡群出土）
		市指定有形文化財（平成 6 年 3 月 18 日）	

概要

ハセムシ窯跡群から出土した、ヘラ状の道具で文字が刻まれた須恵器（すえき）です。この須恵器には「調」という古代の税についても記されており、たいへん貴重な発見となりました。

視点

17	もくぞうしょうかんのんりつぞう 木造聖観音立像	1414 年	雑餉隈町 2 丁目
		県指定有形文化財（昭和 45 年 5 月 2 日）	

概要

雑餉隈町にあるお堂の中に祀られた、木製の観音像です。目元、口元のおだやかな丸みのある線は、典型的な室町時代の様式を感じさせます。

視点

18	つついのいど 筒井の井戸	江戸時代	筒井 2 丁目
		県指定有形民俗文化財（昭和 47 年 4 月 15 日）	

概要

筒井の地名の由来となった井戸です。現在の井戸には花崗岩をくり抜いた石枠が 2 段積まれています。

視点

19	どうひょうせき **道標石**	1744 年	大城 4 丁目 5
		市指定有形民俗文化財（平成 6 年 3 月 18 日）	

概要

釜蓋（かまぶた）の古い集落のはずれにある道しるべです。江戸時代に地元の人によって立てられ、大切にされてきたもので、両脇にはいつ頃からか 2 体の仏像が据えられています。

視点

20	ぐんきょうかいひょう **郡境界標**	1817 年	歴史資料展示室（錦町 1 丁目 2-10）
		市指定有形民俗文化財（平成 6 年 3 月 18 日）	

概要

県道 112 号線の雑餉隈町と錦町の境に建っていた、高さ 117 センチの角形の石柱です。日田街道のなごりで、当時の御笠郡と那珂郡との境界を明示するものでした。

視点

21	なごしばらいぎおんおどりのえま **夏越し祓い祇園踊りの絵馬**	1831 年	乙金 2 丁目
		市指定有形民俗文化財（平成 6 年 3 月 18 日）	

概要

乙金区にある乙金宝満神社の拝殿に掲げられた大型の絵馬です。ヒノキの額は縦 117cm、横 188cm あり、「天保二辛卯六月十日産子中」「應需東圃寫□」の紀年名があります。

視点

22	きょうほうねうしがしここつとう **享保子丑餓死枯骨塔**	1732 年	乙金
		―	

概要

乙金の高原家の墓地にある石碑で、享保（きょうほう）の大飢饉で立てられました。「享保十七年、九州大いに飢え、本州も甚し、･･･闔国の死者十万人に至るという･･･」と刻まれています。

視点

23	ひらのじんじゃ **平野神社**	994 年	牛頸 3 丁目 14-1
		―	

概要

牛頸にある、市内で最も古い神社です。伝承では正暦年中（990～994 年）に創建されたと伝えられ、京都の平野神社から勧請された末社（まつしゃ）です。

視点

24	うめがしらかまあと **牛頸須恵器窯跡（梅頭窯跡）**	600 年頃	上大利
		国指定史跡（平成 21 年 2 月 12 日）	

概要

須恵器の窯（かま）が、墓に再利用された全国で初めての事例です。牛頸須恵器窯跡に含まれ、窯跡は 1 基、6 世紀後半～7 世紀初頭の古墳時代後期の窯跡で、全長 11.59 m、最大幅 2.3m、高さ 1.3 mです。

視点

25	なかしまいせき **仲島遺跡**	前 100 年	仲畑 2･4 丁目
		―	

	概要 人面墨書土器、貨布、移動式竈などが出土した、古代集落の遺跡です。弥生時代・古墳時代・奈良時代の集落と考えられます。（写真は大野城市歴史資料展示室）	視点

26	おおきやまよんごうふん **王城山４号墳**	古墳後期	乙金
		―	

	概要 乙金区正栄寺の裏山の、ピアノターミナルナカムラ㈱の敷地内に保存されている古墳です。6 世紀の古墳時代後期の円墳で、昭和 46 年 6～7 月に調査が行われ、須恵器・勾玉などが出土しました。	視点

27	なかてらおいせき **中寺尾遺跡**	0 年以前	大池 1 丁目
		―	

	概要 中区の九州電力福岡制御所の南西に広がっていた弥生時代の遺跡です。主に弥生時代前期～中期中頃の共同墓地であり、当時の人々の生活、とりわけ葬制、墓制を知る上で全国的に有名な遺跡です。	視点

28	もりぞのいせき **森園遺跡**	弥生～古墳	川久保 3 丁目
		―	

	概要 川久保にある九州電力の変電所構内と、その西側の斜面にあった遺跡です。住居跡と合計 59 基の土坑墓・甕棺墓・石棺墓などからなる弥生時代の墓地が見つかりました。	視点

29	うしくびすえきかまあと **牛頸須恵器窯跡**	500 年代-	牛頸山中
		国指定史跡（平成 21 年 2 月 12 日）	

	概要 古墳時代から平安時代にかけて多くの窯が集まり、須恵器が製造されていた地帯です。推定総数 500 基を超える窯が集まった須恵器の一大生産地だったと考えられています。	視点

30	おだうらかまあとぐん **牛頸須恵器窯跡（小田浦窯跡群）**	500 年代	月ノ浦 4 丁目～平野台 4 丁目
		―	

	概要 当時須恵器が生産されていたこの地帯で、中心地と推定されている窯跡です。牛頸窯跡群で、この規模の窯が一ヶ所に集まっている場所は唯一です。	視点

31	なかどおりいせきぐん 中通遺跡群	500 年代-	宮野台
		—	

	概要 宮野台にあり、古墳 14 基、窯 6 基が確認されている遺跡です。古墳はすべて横穴式石室で、6 世紀後半から 7 世紀後半のものです。	視点

32	みやぞえいぜきのひ 宮添井堰の碑	2003 年	御笠川 1 丁目 18
		—	

	概要 宮添井堰の工事をめぐる悲話「ひんどの人柱と火の玉」の碑です。平成 15 年 1 月に立てられました。	視点

33	てんぐのくらかけまつのひ 天狗の鞍掛け松の碑	2001 年	牛頸
		—	

	概要 牛頸に残された天狗伝説に出てくる松の木の再現です。平野小学校の発案で西寄りの位置に新たに黒松が植えられ、記念碑が立てられています。	視点

※　遺跡の中にはすでに消滅したものもあります。

資料２ アンケートの結果

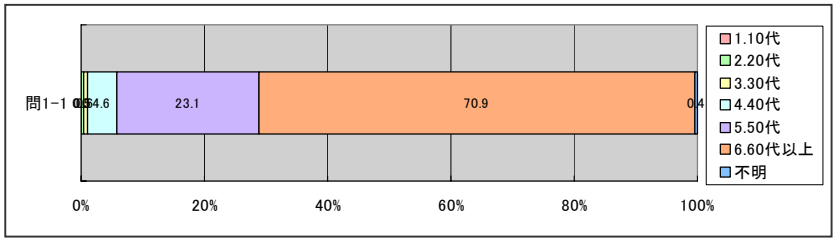
（１）〇付け回答の集計〈一般市民の場合〉

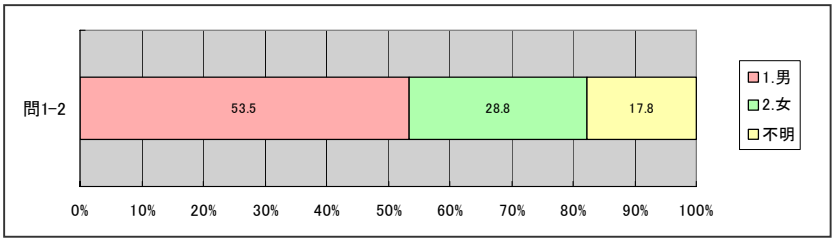
質問１では、アンケート回答者の年齢と性別をお聞きしました。

６０代以上が７０%、５０代以上で９４%、４０ 代も含めると回答者の９８%に達しています。一方、３０ 代以下は極めて少なくなっています。

アンケートの回収率４０.５%と合わせて考えると、今回のアンケートの回答率は４０歳以上はかなり高く、３０歳までは非常に低かったことがわかります。

６０歳以上が７０%というのは、少し偏りがあると思われます。

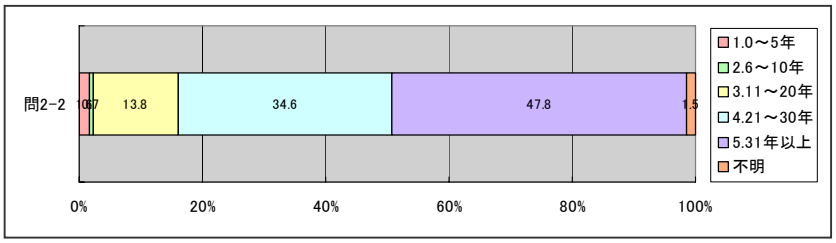




質問２では、アンケート回答者のお住まいと大野城市における居住年数をお聞きしました。

やはり顕著な片寄りが生じており、長く住んでいる方ほど回答率が高い傾向がみられます。

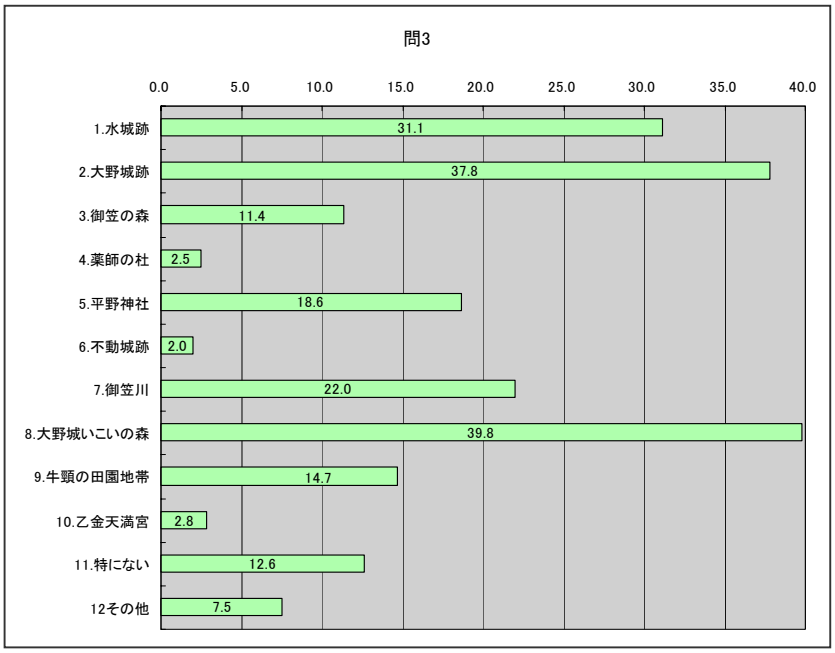
１０年以下の市民は、回答者の中ではごく少数となっています。



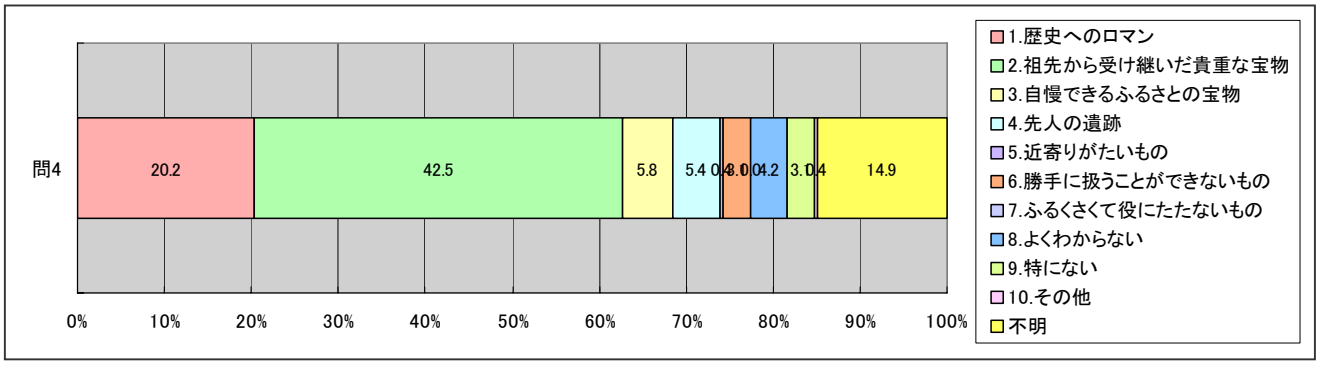
質問 3 では、大野城市の景観（風景・眺め）で好きなところを複数回答で選んでいただきました。

「大野城いこいの森」「大野城跡」「水城跡」が、特に人気の景観という結果になりました。

「御笠川」「平野神社」も、好きな景観として上位にあげられています。



質問 4 では、文化財という言葉にどんなイメージをお持ちになるかを複数回答でお聞きしました。



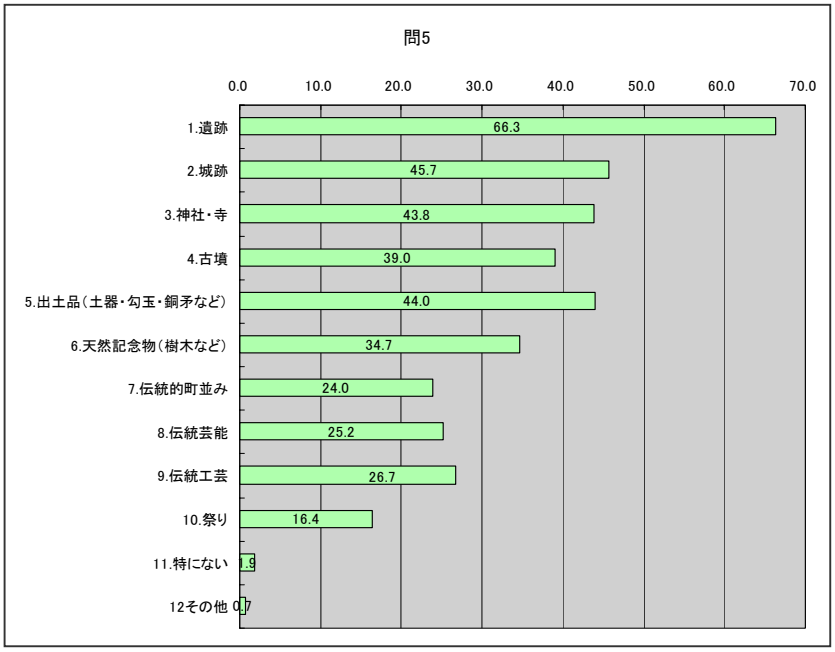
祖先からの宝物というイメージが総数の 4 割以上と、最も多い回答でした。

回答者の大部分を占める中高年に特徴的なのは「歴史のロマン」の多さで、このイメージが文化財への関心につながっていると考えられます。

質問 5 では、文化財という言葉を聞いて思い浮かべるものを複数回答でお聞きしました。

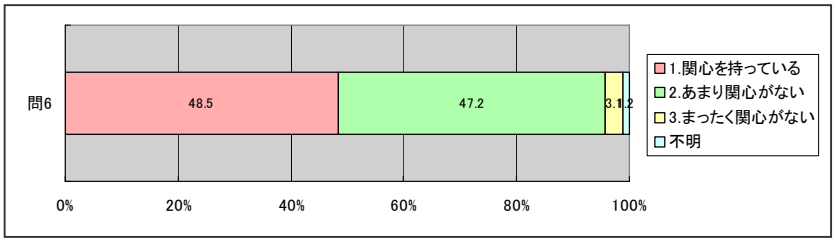
「文化財」の語から連想するものは、「遺跡」が最大で、以下も概して城跡、神社などが上位にきています。

伝統的町並みがやや少ないのは、市内に保存町並みや町家などの文化財が少なく、目立たないせいもあると考えられます。

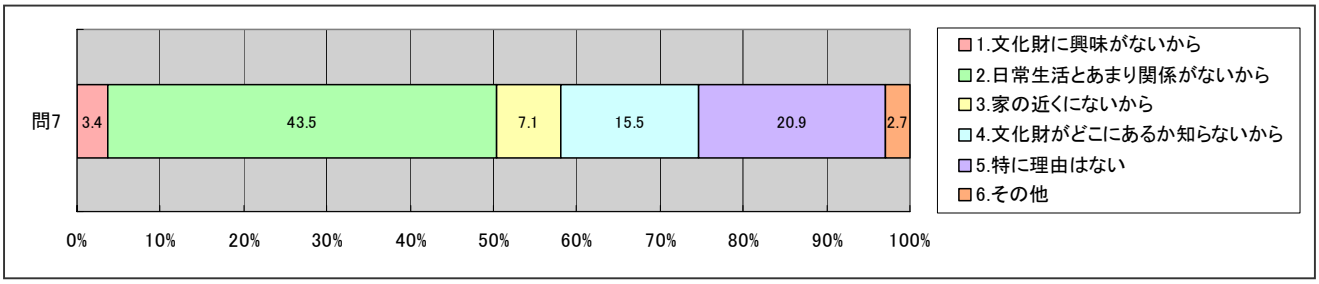


質問 6 では、日ごろ文化財に対して関心を持たれているかをお聞きしました。

回答者の半数は文化財に関心を持っており、また、あまり関心がない人も半数います。



質問 7 では、「質問 6」の「2」「3」とお答えいただいた方に、その理由をお聞きしました。

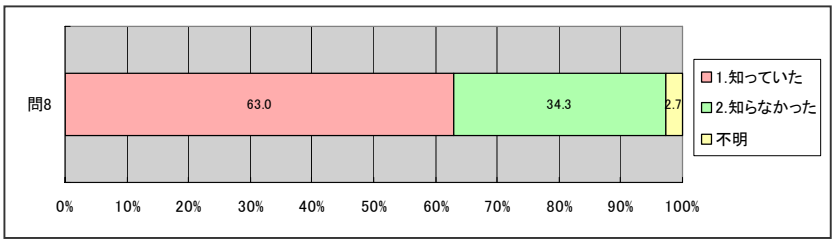


「日常生活とあまり関係がないから」が最も多く、また他の回答の中にも、この理由から派生したと思われるものがあると考えられます。

質問 8 では、「大野城市」の名称の由来をご存知かをお聞きしました。

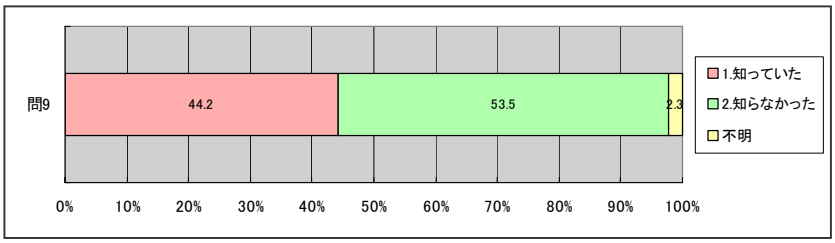
市の名の由来は市民に広く知られているようにも見えますが、今回のアンケートを読んで知った方も多いことがわかります。

回答者の多くが居住期間の長い中高年である点を含めると、意外に知られていないともいえます。



質問 9 では、「水城跡」や「大野城跡」がいつ頃つくられたかご存知かをお聞きしました。

知っている人の率は半分以下にとどまりました。



質問 10 では、これまで行かれたことがあるところを複数回答でお聞きしました。

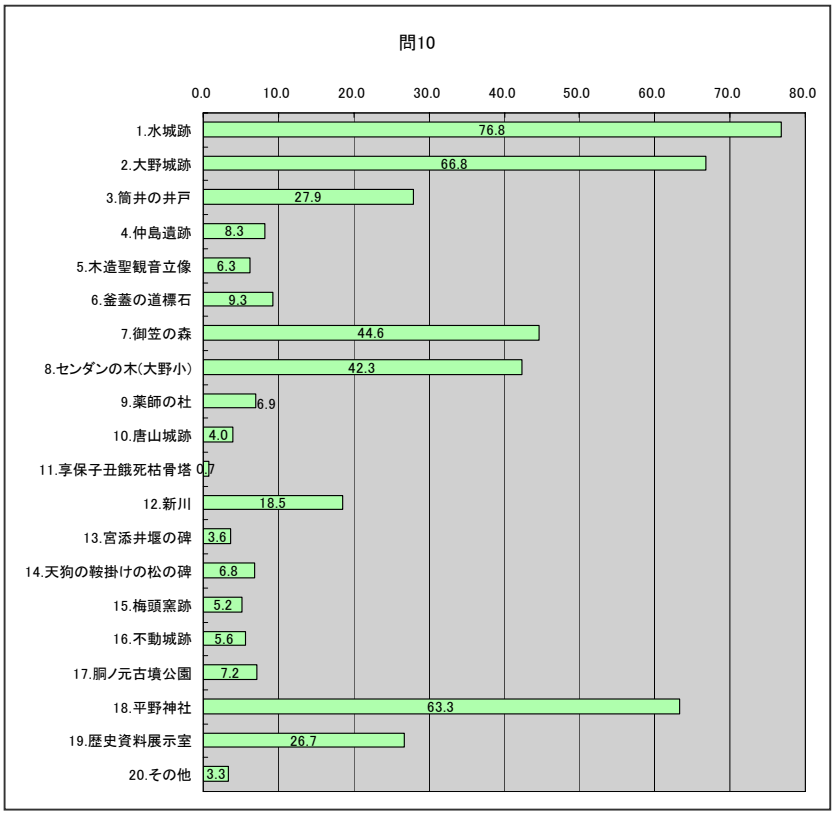
質問３「好きな景観」では、「大野城いこいの森」「大野城跡」「水城跡」「御笠川」「平野神社」が上位を占めましたが、実際に訪れた場所も同様の結果になりました。

ここでは、「センダンの木」や「筒井の井戸」も高い得票となっています。

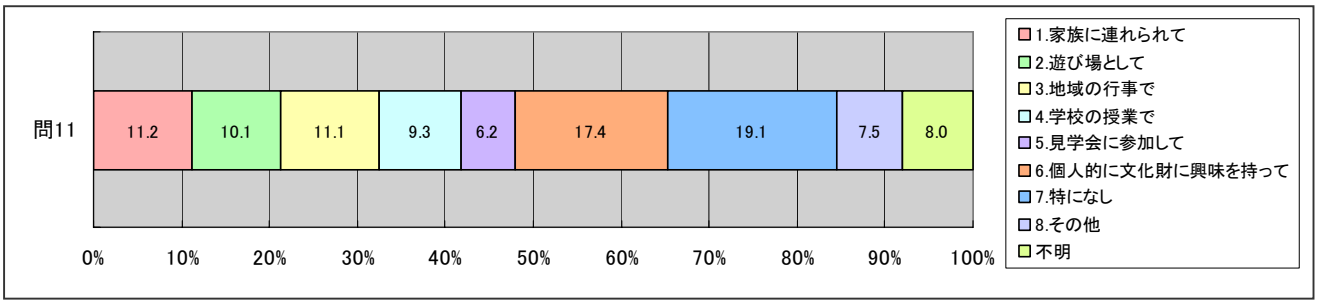
グラフの形から、文化財の人気の高低がはっきりと分かれているように読み取れます。

歴史資料展示室への訪問は、意外に少ない結果となりました。

上位５箇所について、回答された方の住所をクロス集計（後述）で見ると、全市に亘っていることがわかります。



質問 11 では、文化財との最初の出会いについてお聞きしました。



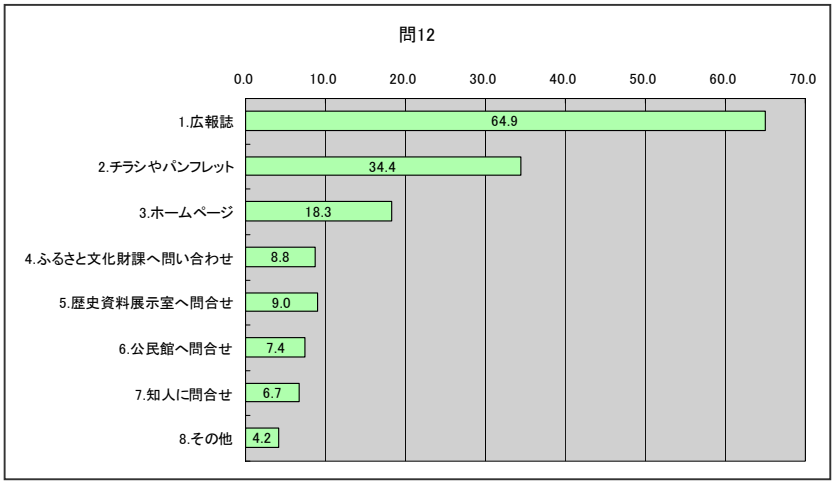
様々な理由にまんべんなく分かれた結果となりました。

質問 12 では、文化財や歴史学習等の催しについて、情報を入手する方法を複数回答でお聞きしました。

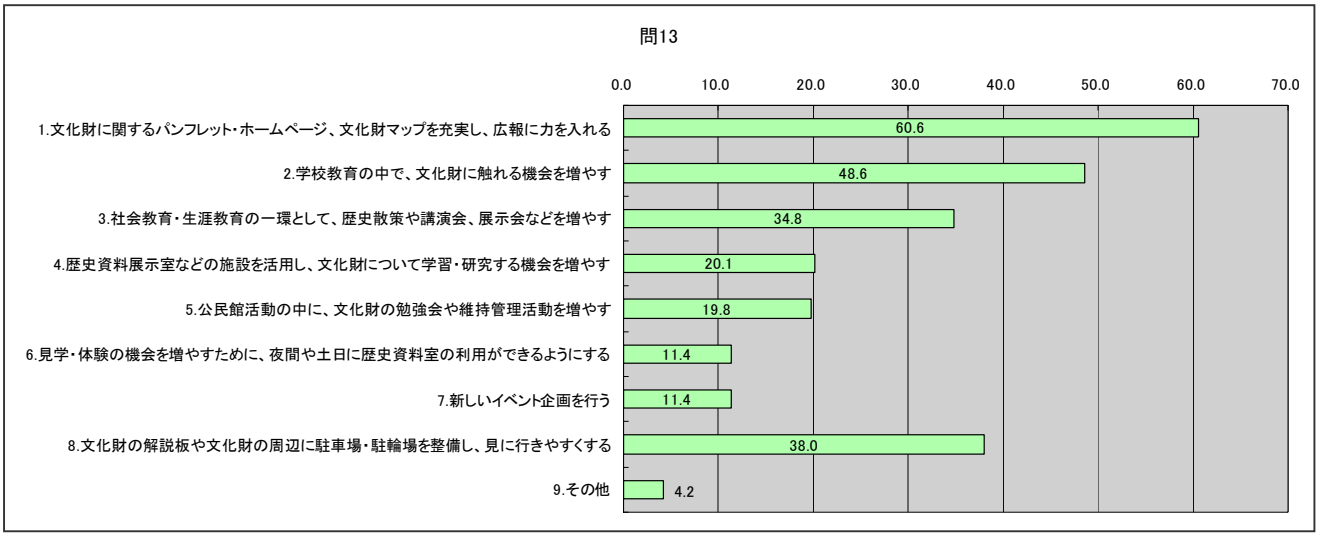
一般市民の情報入手では、広報誌、チラシ、パンフレットが情報源として支持される結果となりました。

また、公的機関への問合せよりも、インターネットによるホームページ閲覧が上位にきています。

ホームページ閲覧の支持率は、現状では中高年者へのコンピューター普及率を反映する形で左右されていると考えられます。



質問 13 では、文化財を日ごろ身近に感じてもらうために必要だと思われることを、複数回答でお聞きしました。



文化財を知らせ、ＰＲする必要性をあげる回答が多くなっています。学校教育や生涯教育の重要性も多くあげられています。

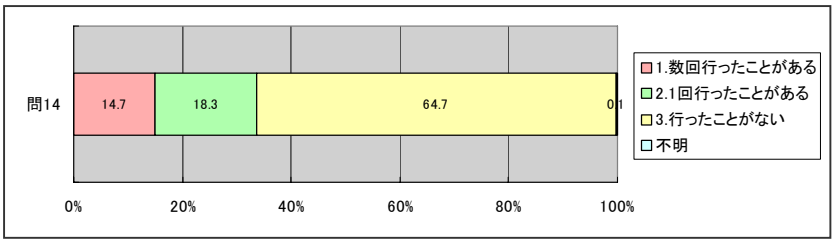
またマイカーなどでたやすく行けるような整備をあげた回答も目立ちます。

歴史資料館の時間延長やイベントへの期待は、低い率にとどまりました。

質問 14 では、歴史資料展示室（市役所新館 3 階）に行かれたことがあるかをお聞きしました。

回答者の３分の２は１回も行ったことがありませんでした。

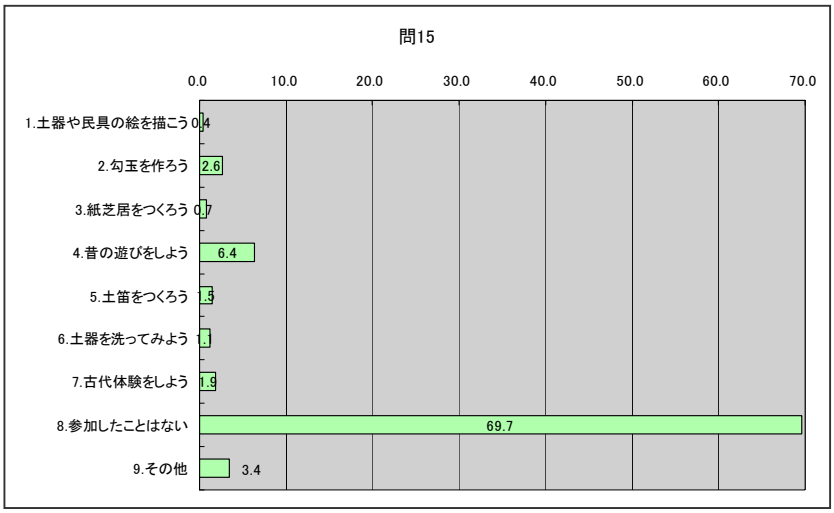
行った人の回数も、１回きりが多くなっています。



質問 15 では、「質問 14」で 1、2 とお答えいただいた方に、歴史資料展示室の「ふれあい歴史体験」のうち参加されたことがあるものを、複数回答でお聞きしました。

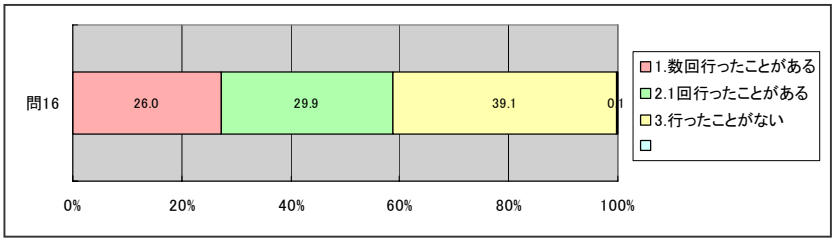
回答者の 7 割は体験活動に参加したことはありません。

昔の遊びへの関心がやや高い傾向にあります。



質問 16 では、九州国立博物館に行かれたことがあるかをお聞きしました。

九州国立博物館にいかれたことがある方が６割近いことは、皆さんの意識が高いことが伺われます。

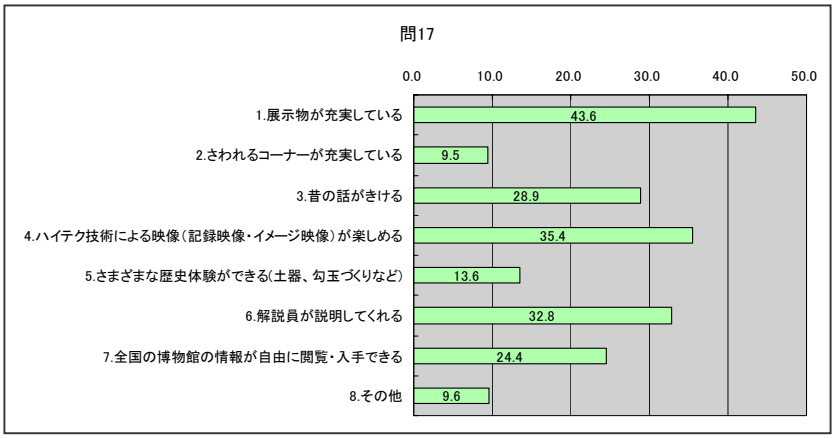


質問 17 では、大野城市に博物館を将来つくるとしたらどのような特徴を持った博物館がよいか、複数回答でお聞きしました。

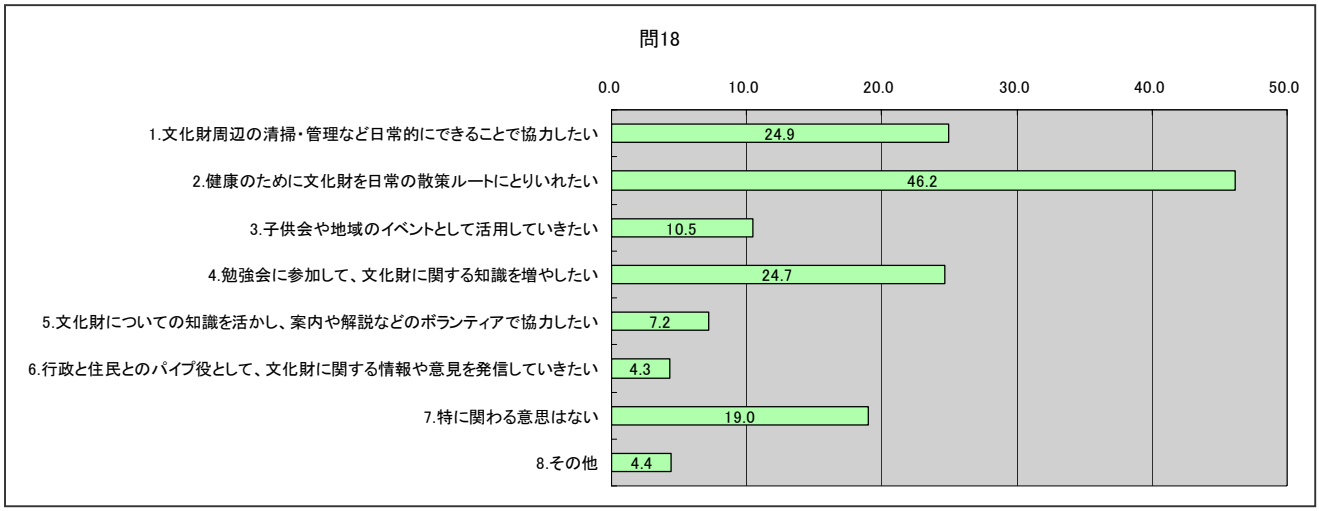
展示物の充実への期待が最大となっており、全般的に展示物と情報の豊富さが強く要望されていることがうかがわれます。

さわったり作ったりということについては、やや低いように思われます。

文化財のことを展示・映像・解説等で、もっと深く接し、知る機会のある博物館が求められているようです。



質問 18 では、文化財をまちづくりに活かすためにどういうものなら関わることができるかを、複数回答でお聞きしました。



第一に、健康のための日常的散策の中で文化財に触れたいという、明確な目的意識がみられます。

文化財について自ら情報発信することへの希望は少ないものになり、観賞志向がうかがえます。

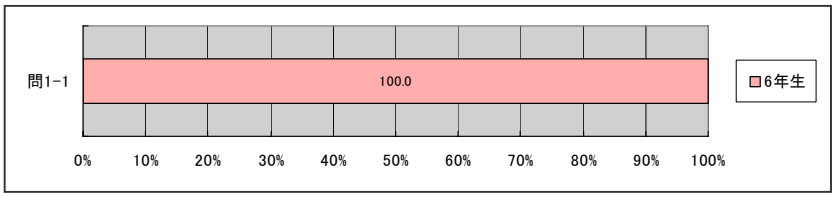
（２）〇付け回答の集計〈小中学生の場合〉

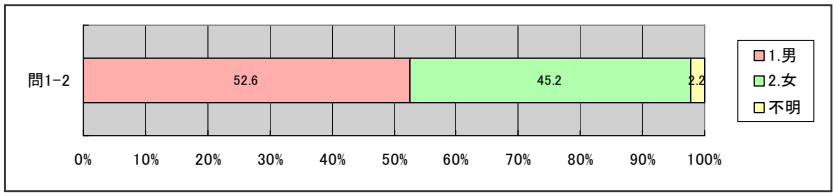
質問 1 では、アンケート回答者の学年と性別をお聞きしました。

小学生は、10 校の 6 年生 323 人にお聞きしました。

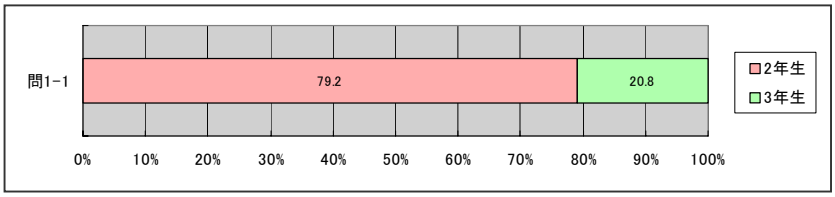
中学生は、1 校の 3 年生 35 人と、4 校の 2 年生 133 人の、合計 168 人にお聞きしました。

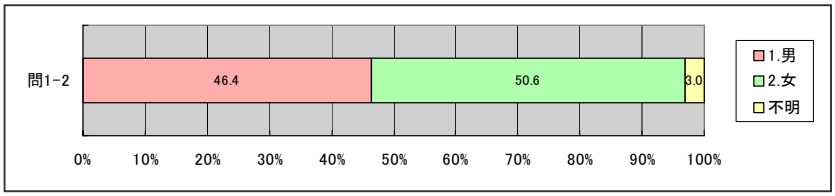
小学生





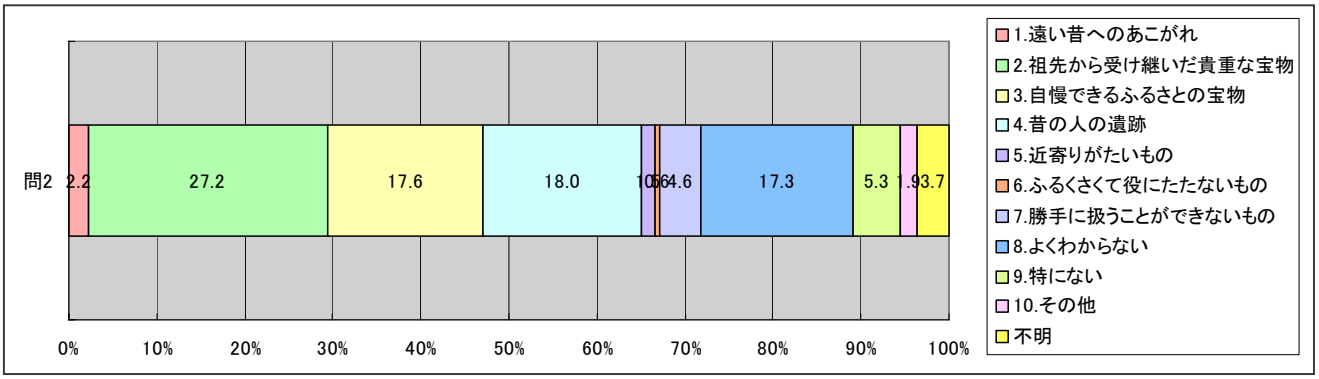
中学生



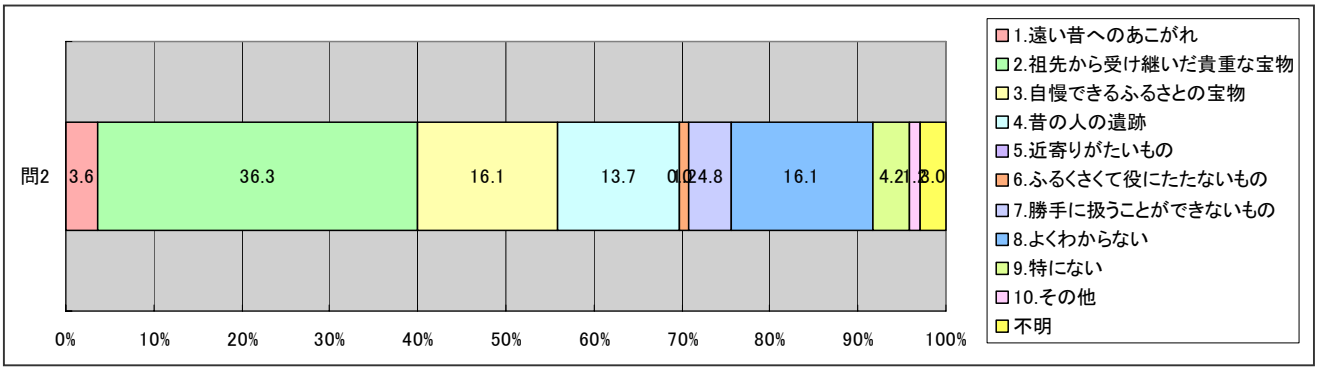


質問 2 では、文化財という言葉にどんなイメージを持つかを複数回答でお聞きしました。

小学生



中学生



「祖先からの宝物」というイメージは一般市民と同様にやはり最多ですが、小学 6 年より中学 2、3 年の方が割合が高くなっています。

子どもが成長するにつれて、祖先とのつながりを考える「大人びた」意識が増したのかも知れません。

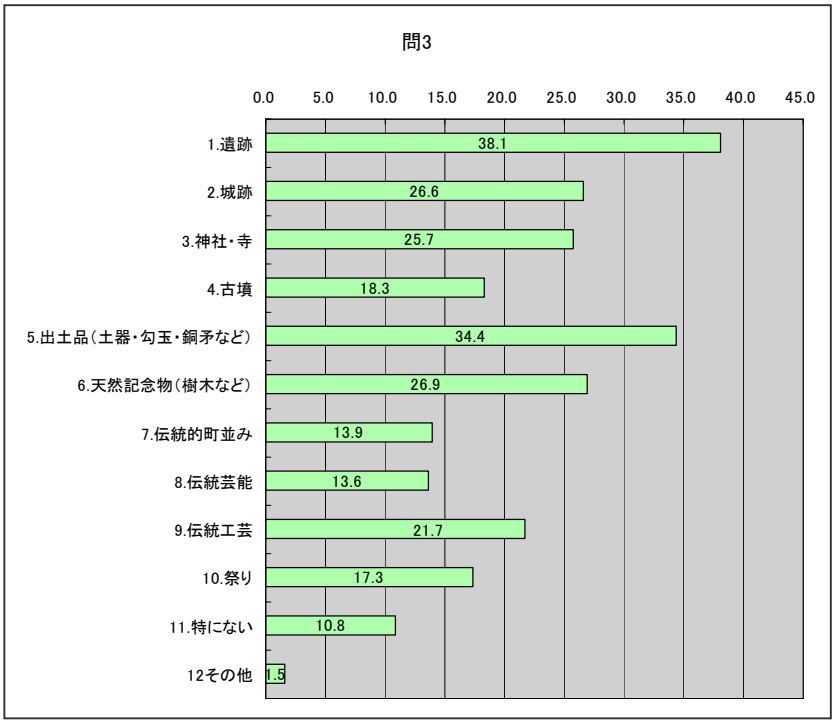
質問 3 では、文化財という言葉を聞いて思い浮かべるものを複数回答でお聞きしました。

「文化財」の語から連想するものは、一般市民と同様に「遺跡」が最多となっています。全体的な傾向も、一般市民と似ています。

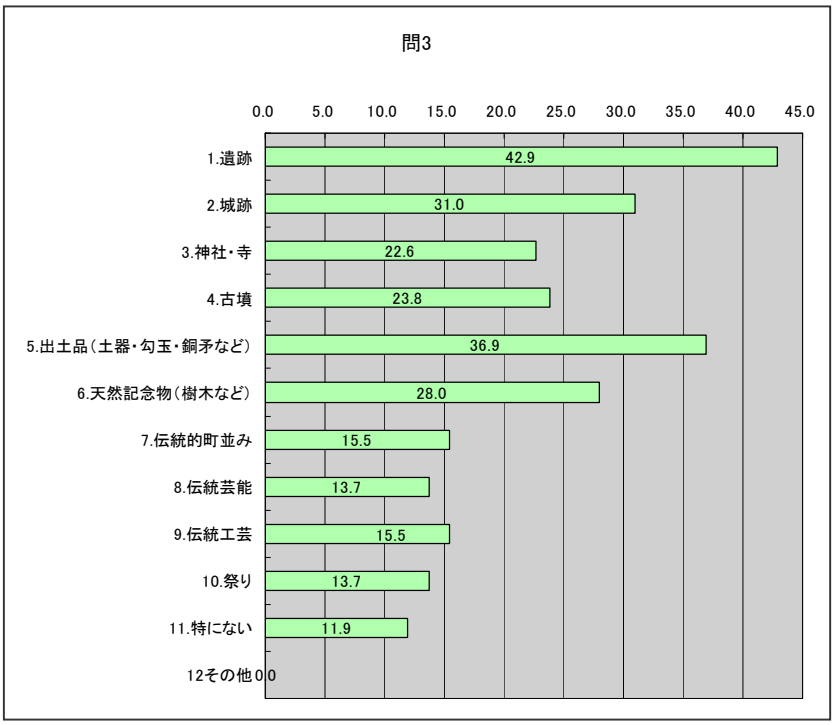
一方、出土品と天然記念物を連想した回答が相対的に多い点は、一般市民の回答とはやや異なっています。

小学生と中学生の違いも出てはいますが、これといった法則まではいえないようです。

小学生



中学生

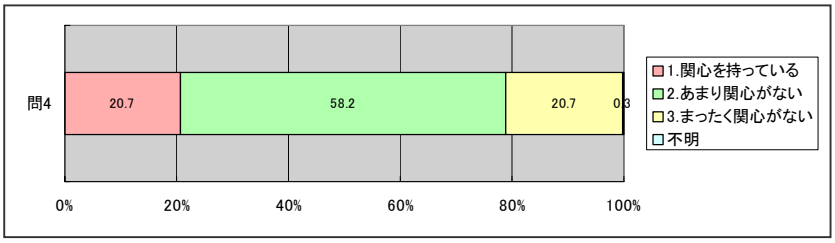


質問 4 では、日ごろ文化財に対して関心を持たれているかをお聞きしました。

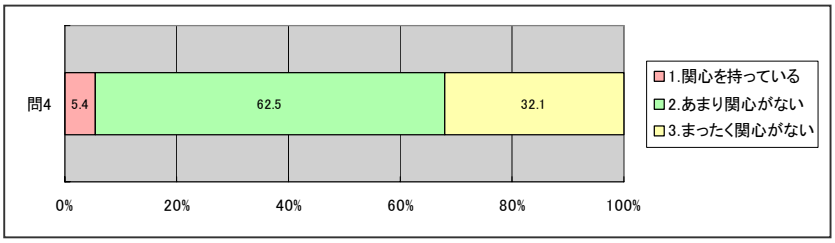
文化財への関心は、小学生よりも中学生の方が目立って低くなっています。

この違いの理由として、子どもが成長して関心が音楽や映画など多方面に広がり、相対的に郷土文化への関心が下がることが考えられます。

小学生



中学生

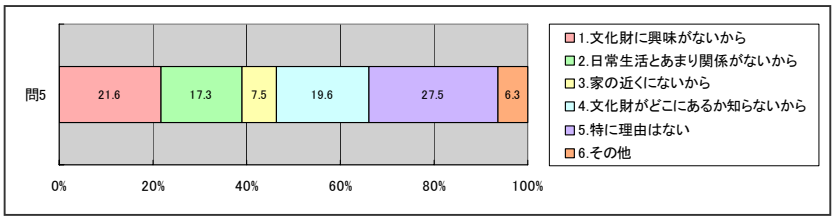


質問 5 では、「質問 4」の「2」「3」とお答えいただいた方に、その理由をお聞きしました。

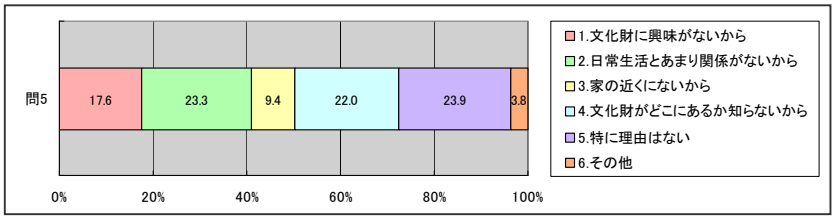
一般市民と異なり、ずばり「興味がない」との率直な回答が多いのが、小中学生の特徴といえます。

また小学生に比べると、中学生では「日常生活とあまり関係がないから」が増えており、一般市民の回答傾向へ近づいているように見えます。

小学生



中学生

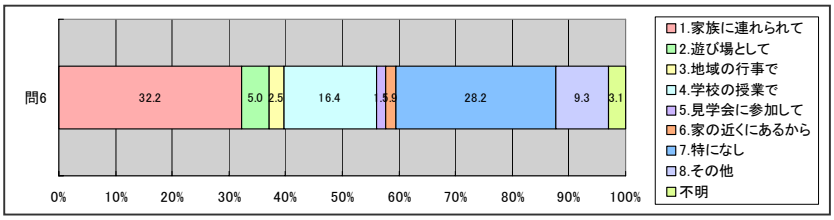


質問 6 では、文化財のある場所に最初に行ったきっかけをお聞きしました。

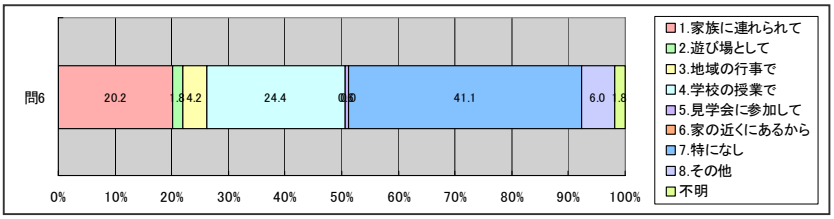
小学生は「家族」、中学生は「学校」と、初めて文化財に触れる機会となった行事に差が出ています。

一般市民の結果では「遊び場として」が他と同等の割合を確保しましたが、小中学生では減っています。

小学生



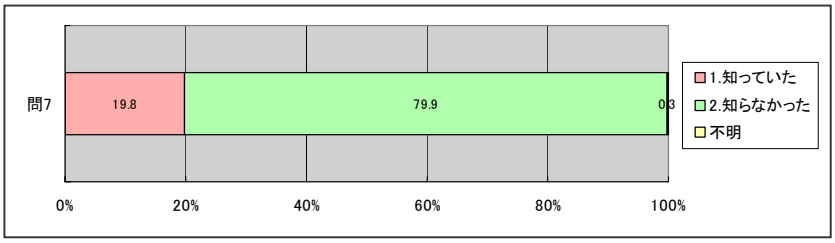
中学生



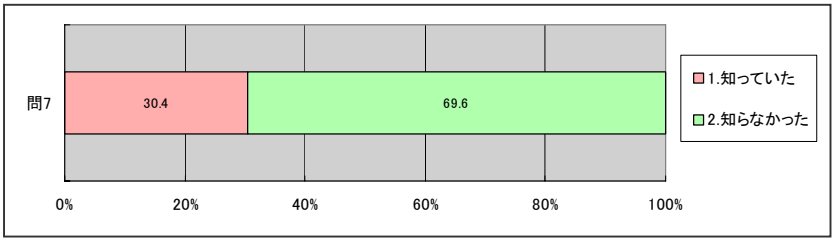
質問 7 では、「大野城市」の名称の由来を知っているかを聞きしました。

小学生の 2 割から、中学生の 3 割へと、知っている生徒は増えています。

小学生



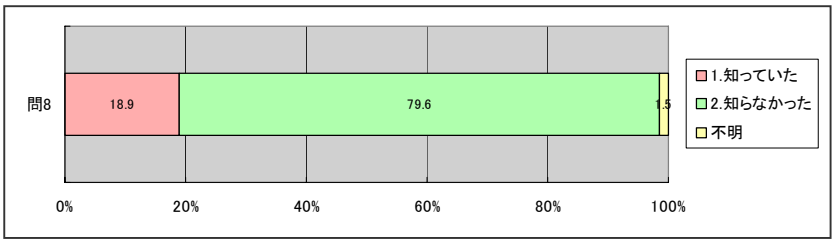
中学生



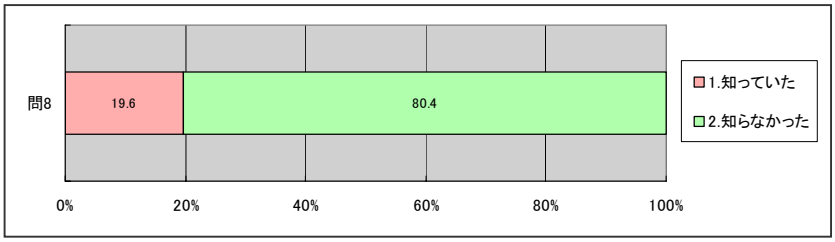
質問 8 では、「水城跡」や「大野城跡」がつくられた時代がいつか知っているかをお聞きしました。

知っている生徒は 2 割弱にとどまり、また小学生と中学生の差はわずかになっています。

小学生



中学生



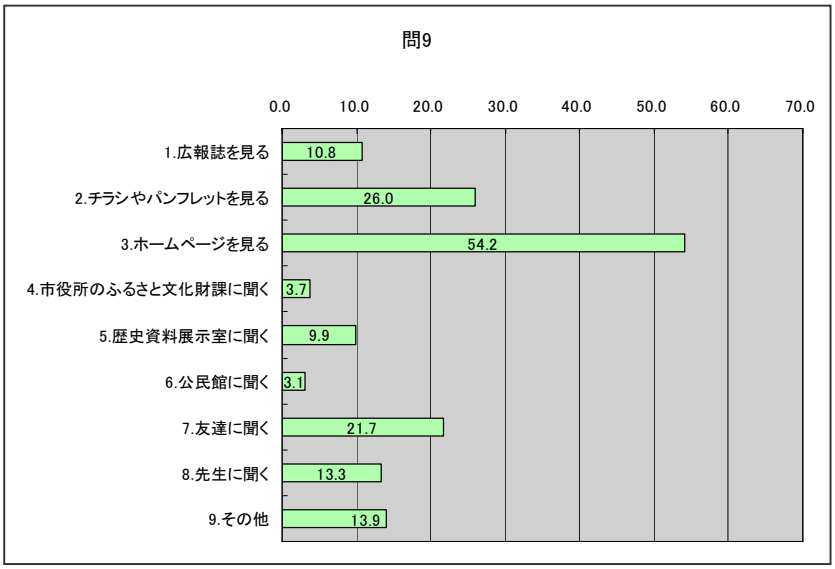
質問 9 では、文化財について知りたいとき、なにを見るか、だれに聞くかを複数回答でお聞きしました。

小中学生の情報入手法として特に多い回答はホームページの閲覧です。広報誌への支持は高くはありません。

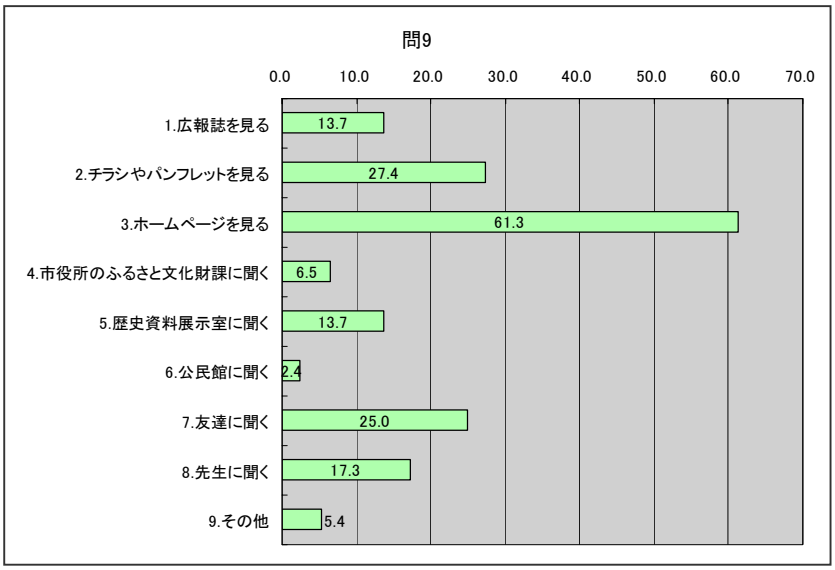
チラシやパンフレットの利用も比較的多く、より簡便で内容も平易に読める方法を選ぶ傾向が考えられます。

中高年の一般市民と比較すると、広報誌とホームページへの支持がほぼ逆転しています。

小学生

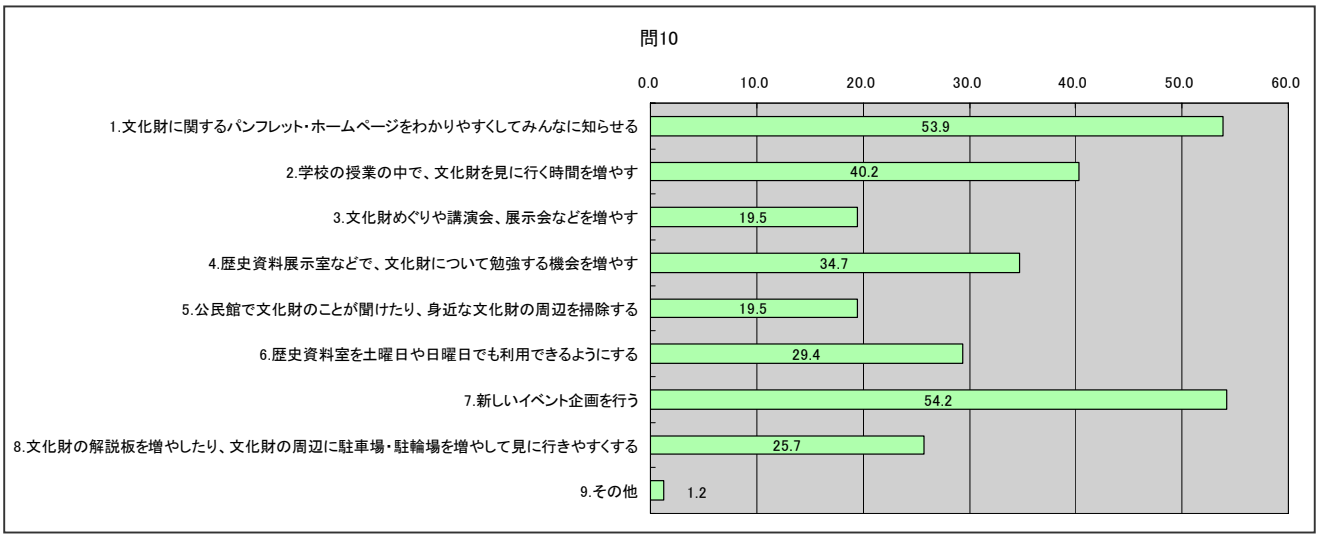


中学生

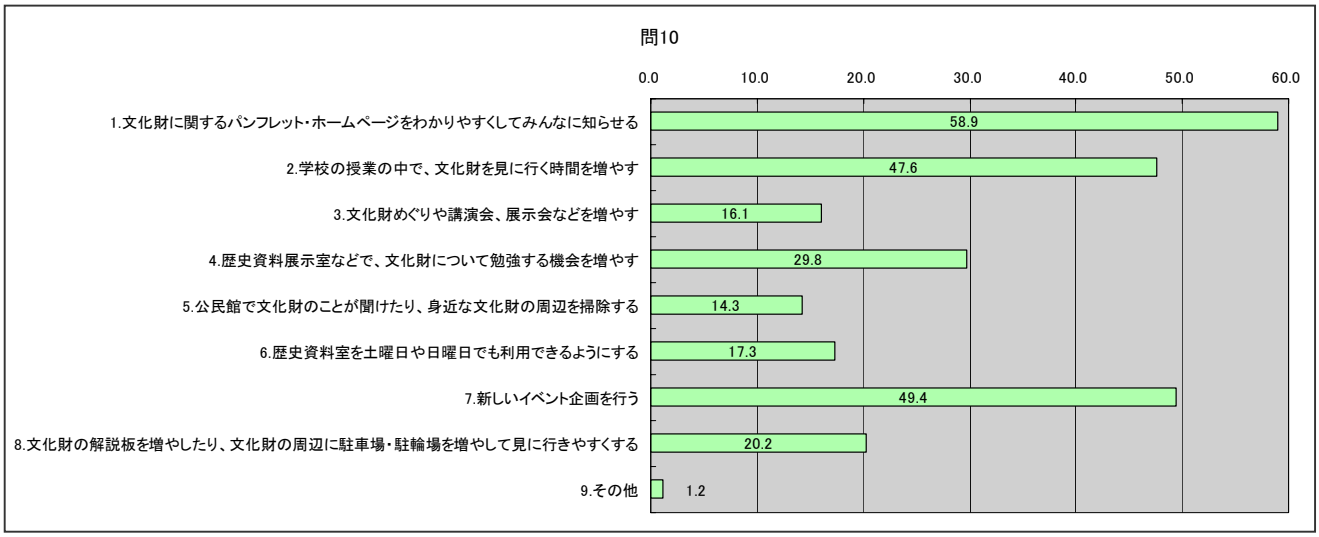


質問 10 では、文化財を日ごろ身近に感じてもらうために必要だと思われることを、複数回答でお聞きしました。

小学生



中学生

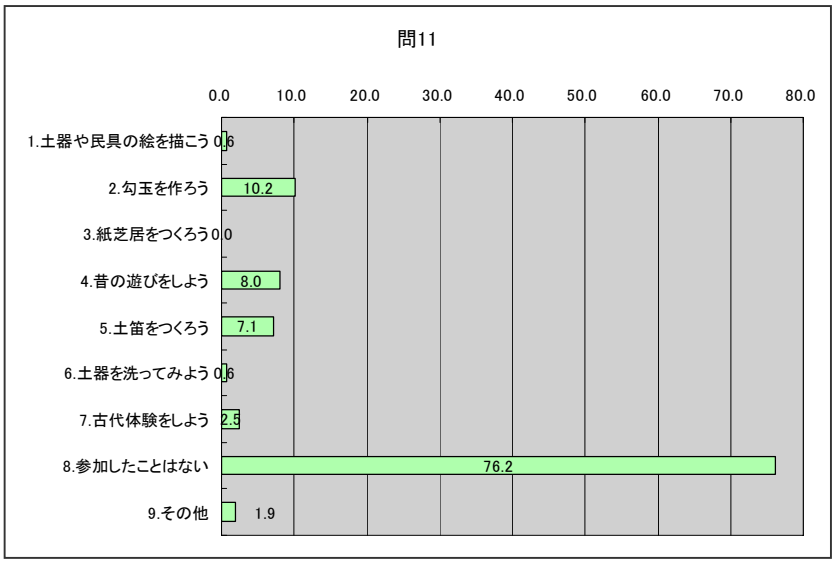


小中学生の回答を比べると、ほとんど同じ傾向であることがうかがえます。中でも、知らせることやＰＲが重要との回答及び「新しいイベント企画を行う」と答えている人が突出していることが特徴として挙げられます。

一般市民と全く違う傾向は、イベントに対する期待の大きさで、特に小学生は新しいイベントへの要望が最多にあげられました。

質問 11 では、歴史資料展示室（市役所新館 3 階）の「ふれあい歴史体験」の体験学習のうち、参加されたことがあるものを複数回答でお聞きしました。

小学生

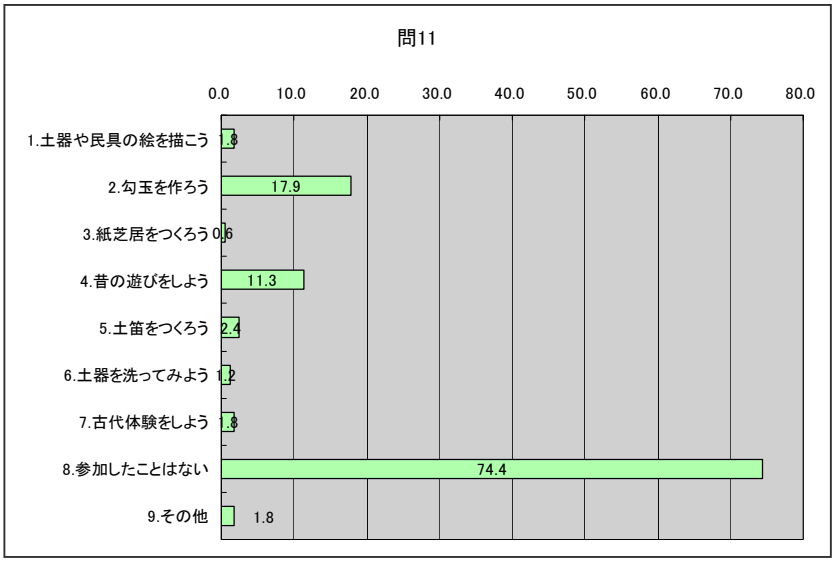


小中学生とも、回答者の 4 分の 3 は「参加したことはない」と答えています。今後、小中学生に文化財に関心を持ってもらう上で、重要なヒントとなります。つまり、この原因がわかれば、新たな方策が見出せる可能性が高いといえます。

参加経験者の内訳を見ると、絵や紙芝居などの平面的なものよりも、宝飾品や楽器など立体物の制作に関心があるようで、特に勾玉の人気が高くなっています。

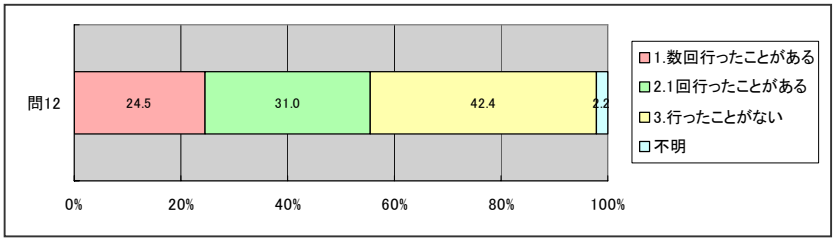
昔の遊びの回答も多く、一般市民の回答結果と、この点は共通しています。

中学生



質問 12 では、九州国立博物館に行ったことがあるかを聞きしました。

小学生

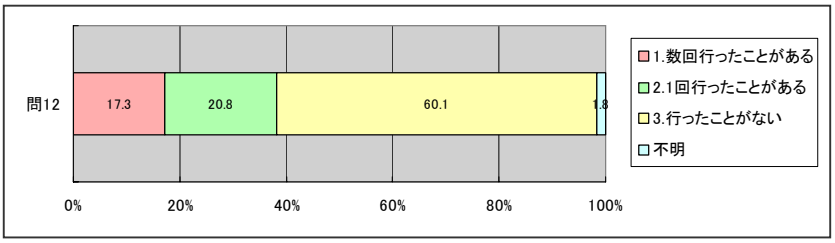


小学 6 年生の 55%が 1 度は行ったと回答しており、関心の高さがうかがえます。

小学生に比べ中学生の方が 40%弱と低くなっている理由として、次ことが推測されます。

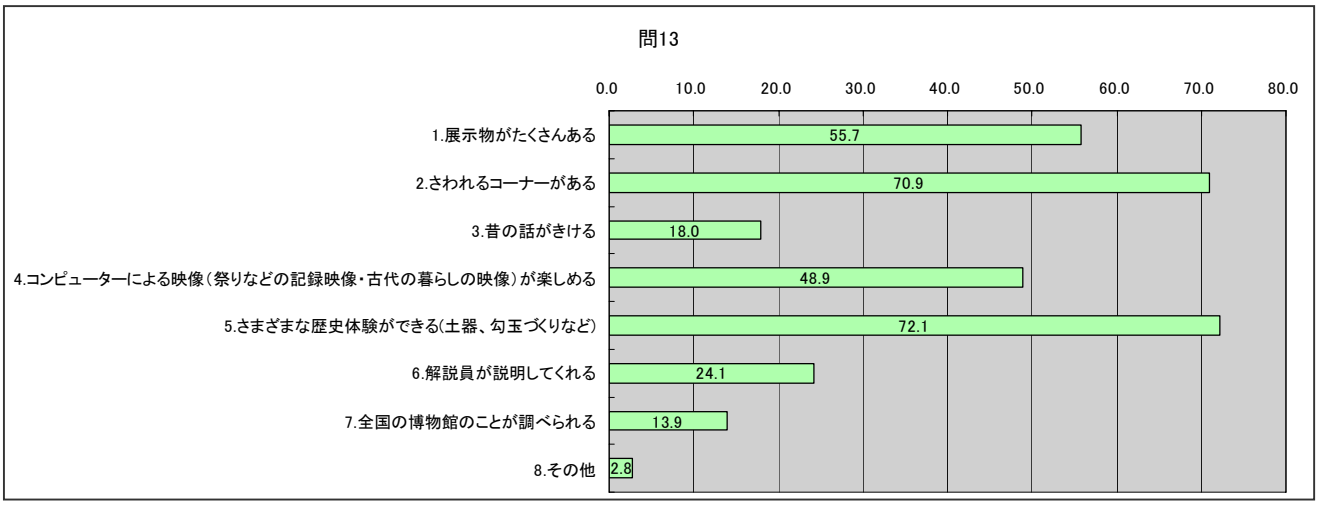
小学生の方が家族連れでの行動が多いことや、中学生へと学年が進むにつれて、関心も多方面に広がり、博物館への来訪が少なくなっていることなどが挙げられます。

中学生

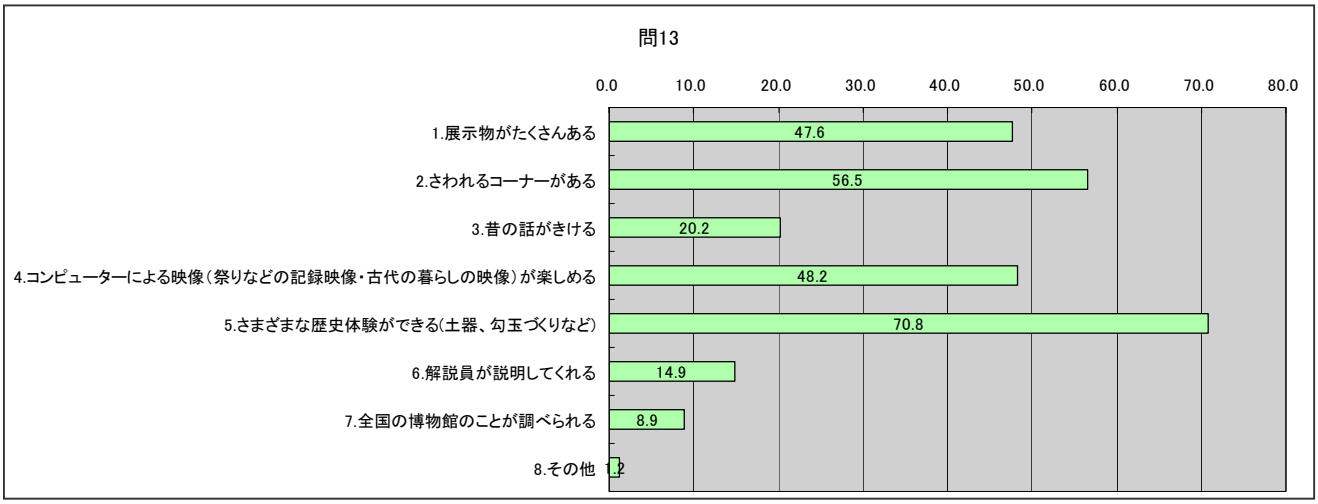


質問 13 では、大野城市に博物館を将来つくるとしたらどんな博物館がよいか、複数回答でお聞きしました。

小学生



中学生



小中学生もやはり、十分多い展示物を要望しています。

ただし中高年の一般市民とは異なり、触れて体験できることへの期待はそれを上回っています。勾玉人気はここにも現れているようです。

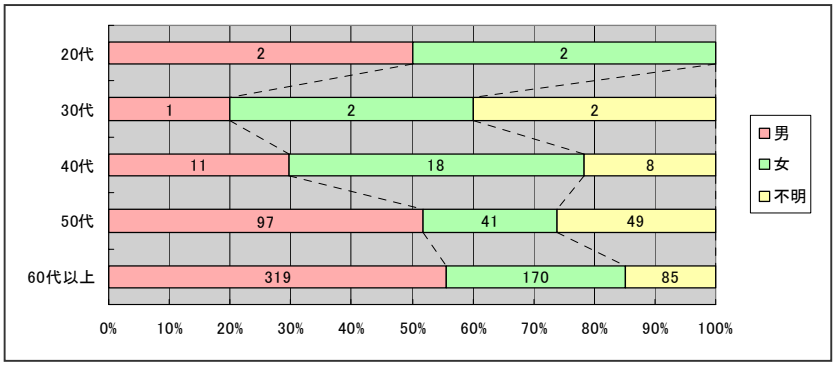
コンピューターグラフィックスなどの映像への関心は、一般市民同様に高くなっています。

教えてくれる機能と調べる機能への期待が小さいのは、文化財と歴史や地理との関わりに、まだ触れた経験が少ないせいと考えられます。

（３）〇付け回答のクロス集計〈一般市民の場合〉

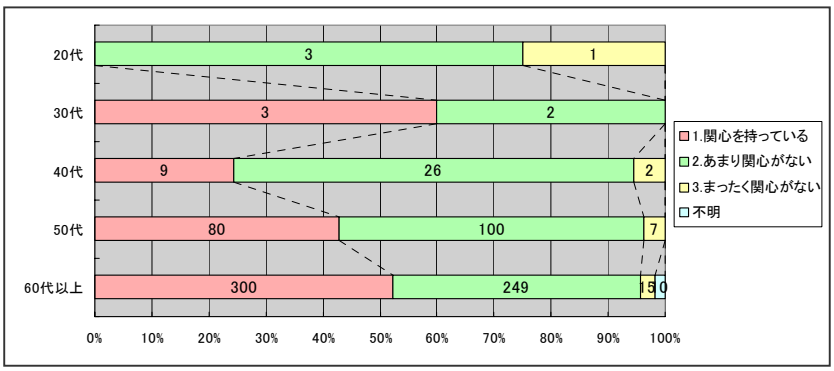
１．質問１の年齢別について、男女の構成比率を見ました。

有意のサンプル数が集まった 50 代以上では、回答者の名義は男性の方が多くなっています。

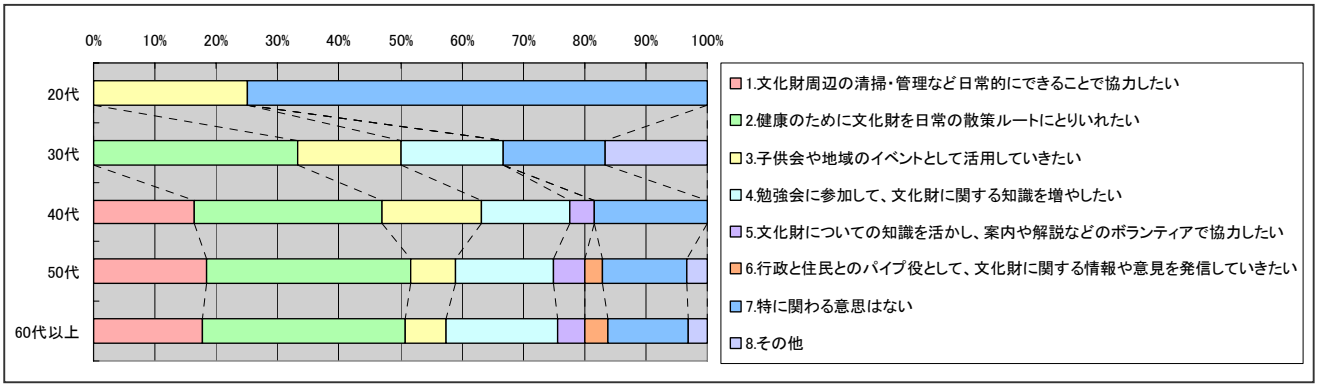


２．質問１の年齢別について、質問６の「文化財への関心度」の内訳比率を見ました。

同様にサンプル数の多い 40 代以上では、高年齢であるほど文化財への関心が高くなっています。



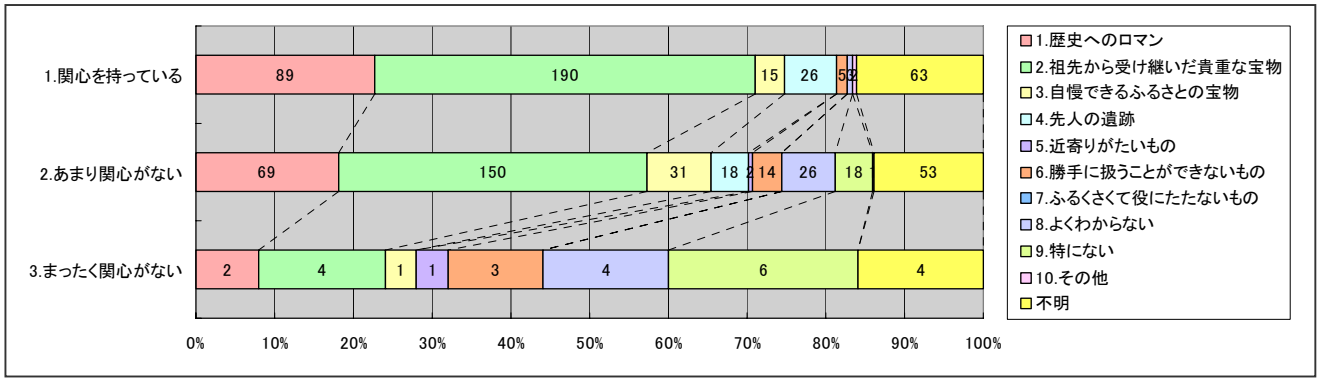
３．質問１の年齢別について、質問１８の「自らが文化財とどう関われるか」の内訳比率を見ました。



「子供会や地域のイベントとして活用していきたい」という回答が、子育て中の世代で多くなっています。

「情報発信したい」との回答は全般にほとんどないのですが、50 代以上で少しだけ現れています。

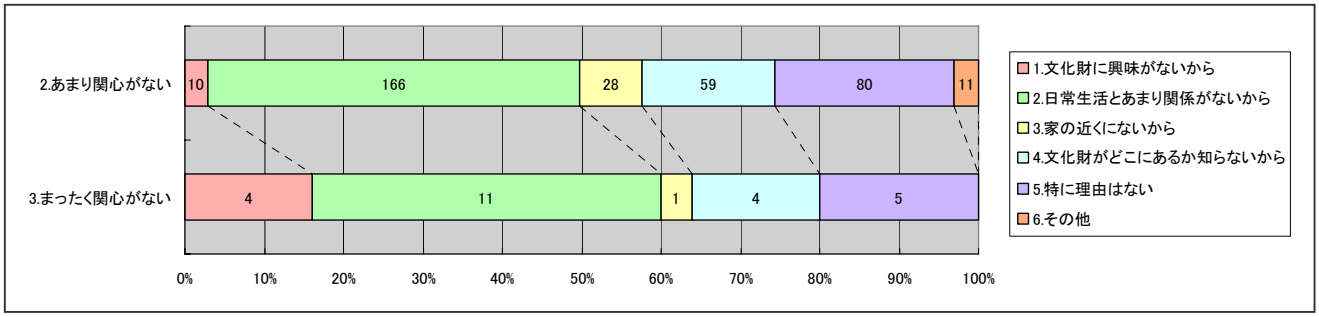
４．質問６の「文化財への関心度」について、質問４の「受け取るイメージ」の内訳比率を見ました。



「関心を持っている」「あまり関心がない」の二者の間に、文化財の語からイメージするものに大差がないことがわかりました。

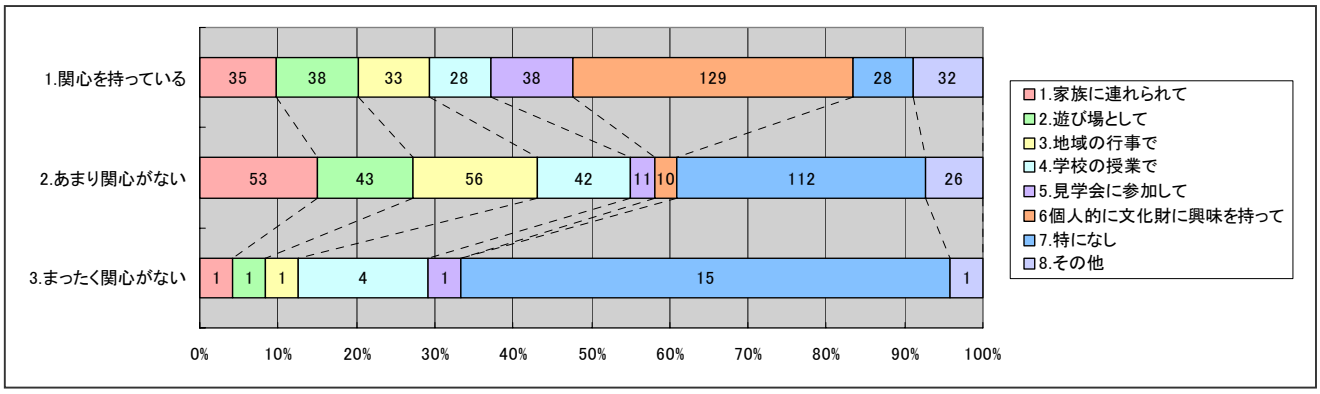
「まったく関心がない」の回答者では、「否定」よりも「敬遠」を意味する回答が増えています。

５．質問６の「文化財への関心度」の回答 2、3 について、質問７の「その理由」の内訳比率を見ました。



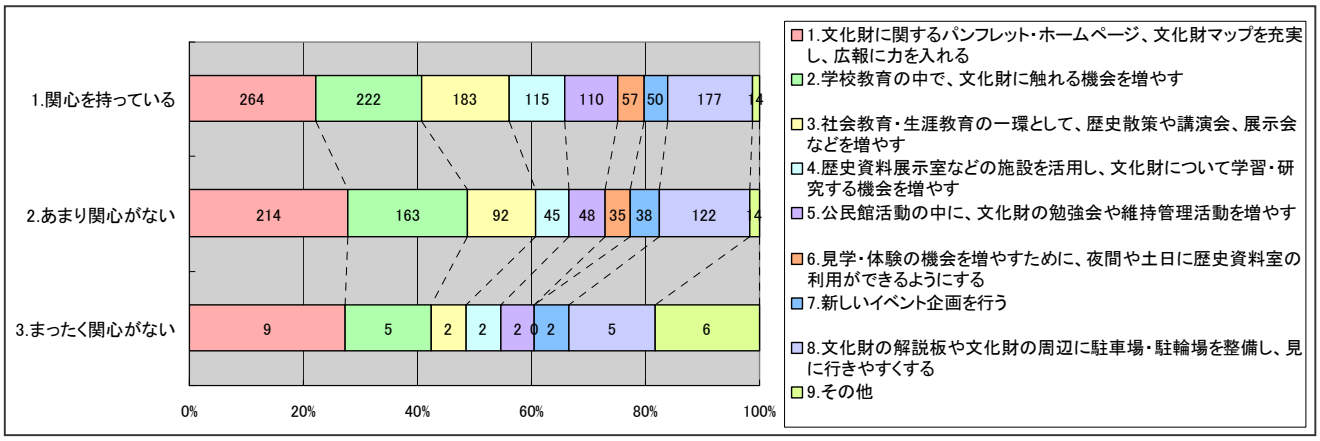
「まったく関心がない」の回答者のサンプル数が不足していますが、各理由の分布は両者で似た傾向になりました。

６．質問６の「文化財への関心度」について、質問１１の「最初の出会い」の内訳比率を見ました。



「関心を持っている」の回答者の中に、「個人的に文化財に興味を持っている」の回答が非常に多いことがわかりました。

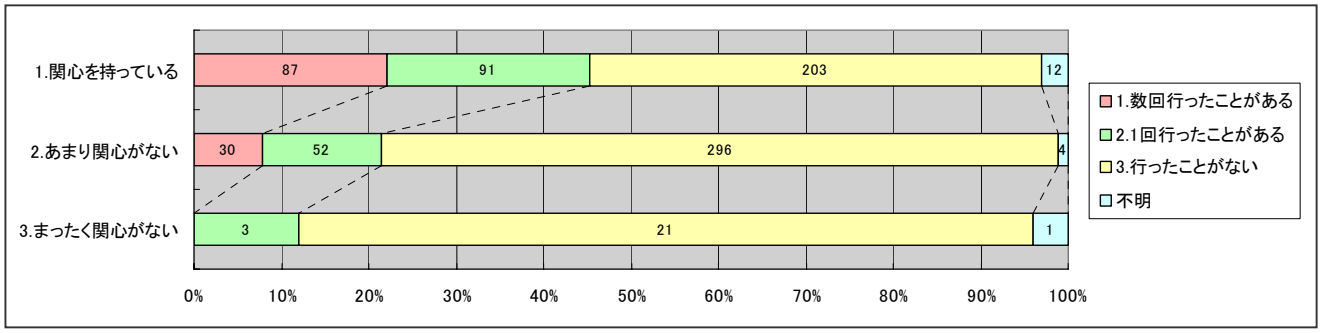
７．質問６の「文化財への関心度」について、質問１３の「必要だと思うこと」の内訳比率を見ました。



「あまり関心がない」の回答者は、パンフレットやマップなどによるＰＲと、学校教育の必要性を多めに回答しています。

「活動やイベント」など参加型の行事に関する回答はやや低い率になりました。

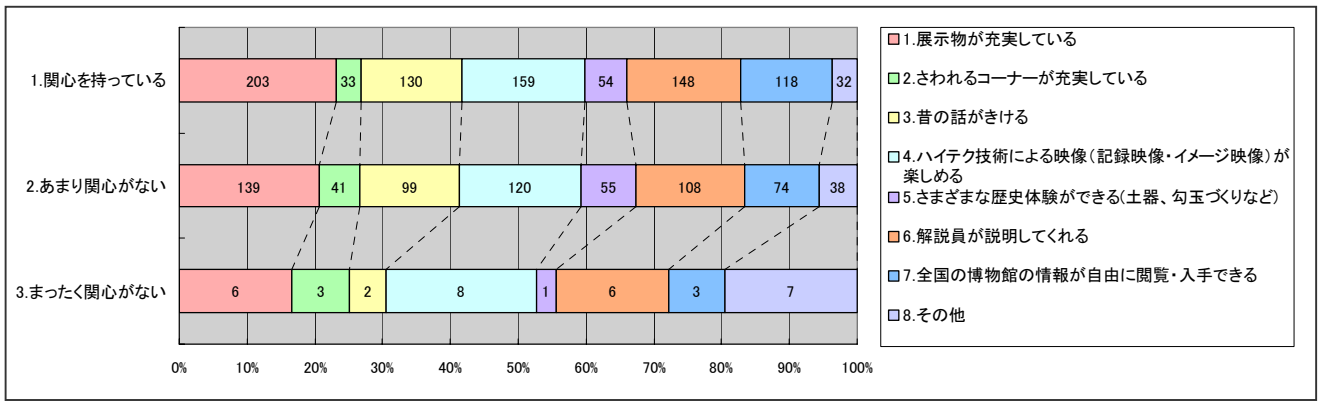
８．質問６の「文化財への関心度」について、質問１４の「展示室への来訪回数」の内訳比率を見ました。



「関心を持っている」方の比率を見ると、５割弱の方が来訪されたことがあるのに対して、関心の度合いが低くなるにしたがって来訪率も低下しているようです。

見方を変えれば、展示室の案内や企画展示を充実することで、文化財への関心を高めることにつながることが期待されます。

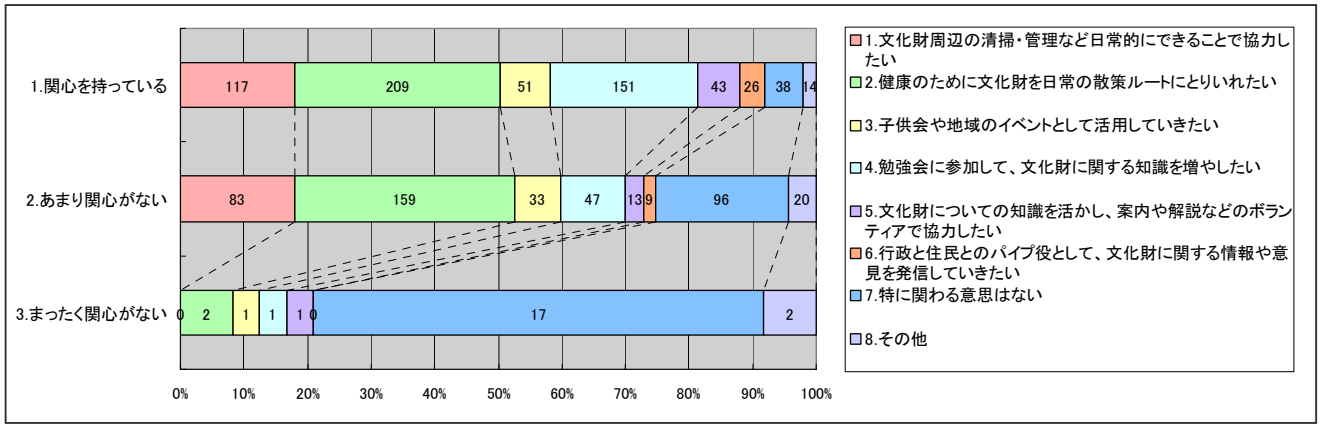
９．質問６の「文化財への関心度」について、質問１７の「将来の博物館への要望」の内訳比率を見ました。



関心度が高くても低くても、将来の博物館への要望内容に大きな違いはありません。

サンプル数不足ながら、「全く関心がない」の回答者は、「さわれる」「ハイテク技術」など、今日的な展示法への関心の割合がやや高くなっています。

１０．質問６の「文化財への関心度」について、質問１８の「自ら関われそうなこと」の内訳比率を見ました。



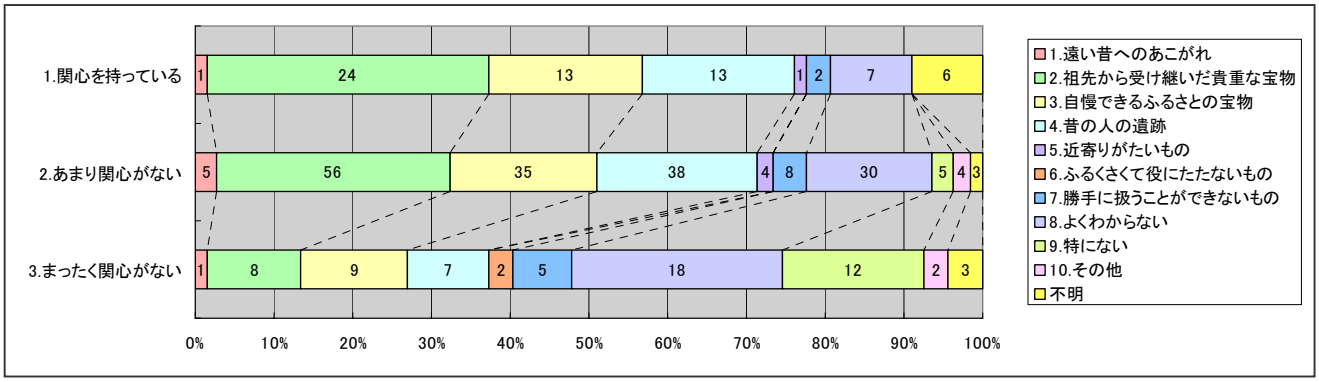
「関心を持っている」の回答者と比較して、「あまり関心がない」の回答者が特に敬遠しているのは「勉強会」だとわかりました。

ところが「健康目的の散策への参加」が微増するなど、「あまり関心がない」という人も簡便な関わりには肯定的になっています。

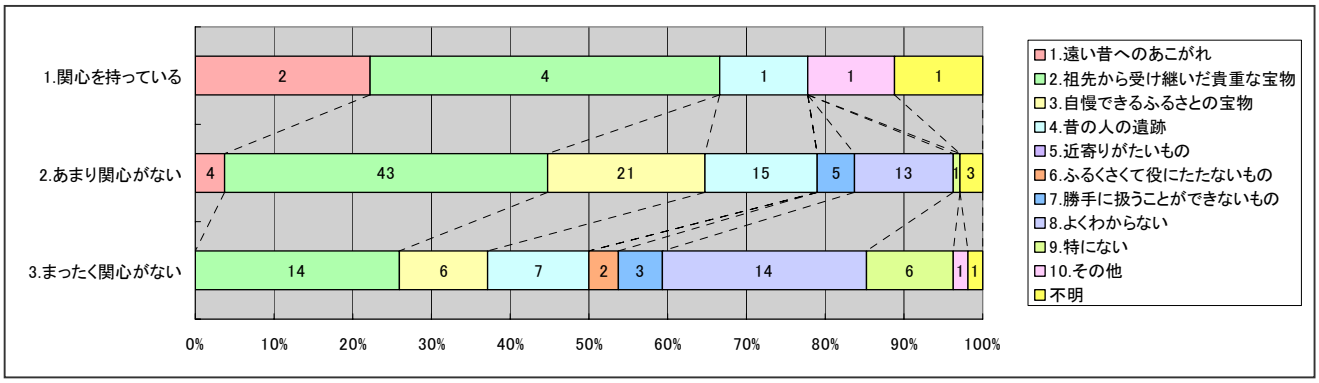
（４）〇付け回答のクロス集計〈小中学生の場合〉

１．質問４の「文化財への関心度」について、質問２の「受け取るイメージ」の内訳比率を見ました。

小学生



中学生

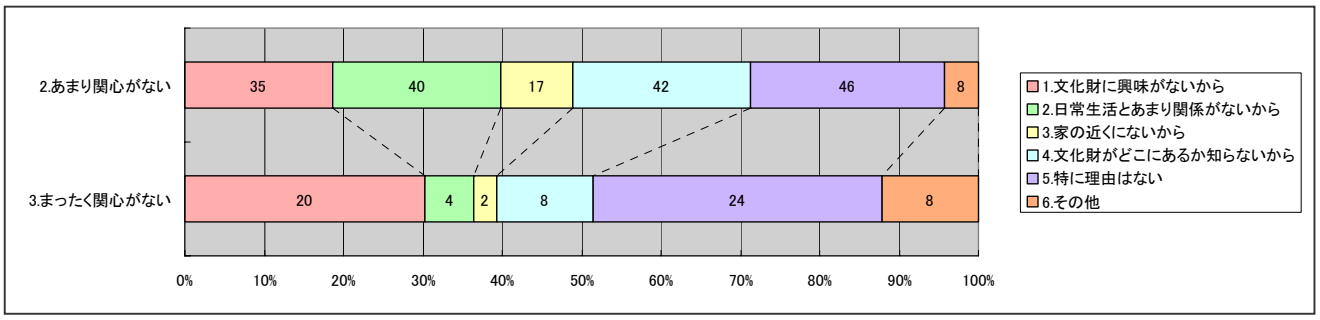


小、中学生とも、文化財への関心が小さい回答者ほど、「よくわからない」「特にない」の回答が増えています。

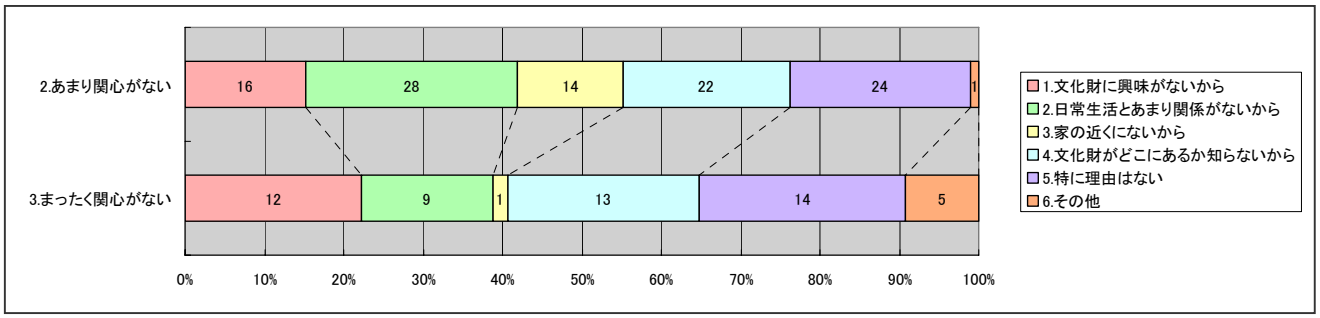
「関心を持っている」中学生はサンプルとして少数ですが、「自慢できるふるさとの宝物」よりも「遠い昔へのあこがれ」に多めに回答しています。

２．質問４の「文化財への関心度」の回答 2、3 について、質問５の「その理由」の内訳比率を見ました。

小学生



中学生

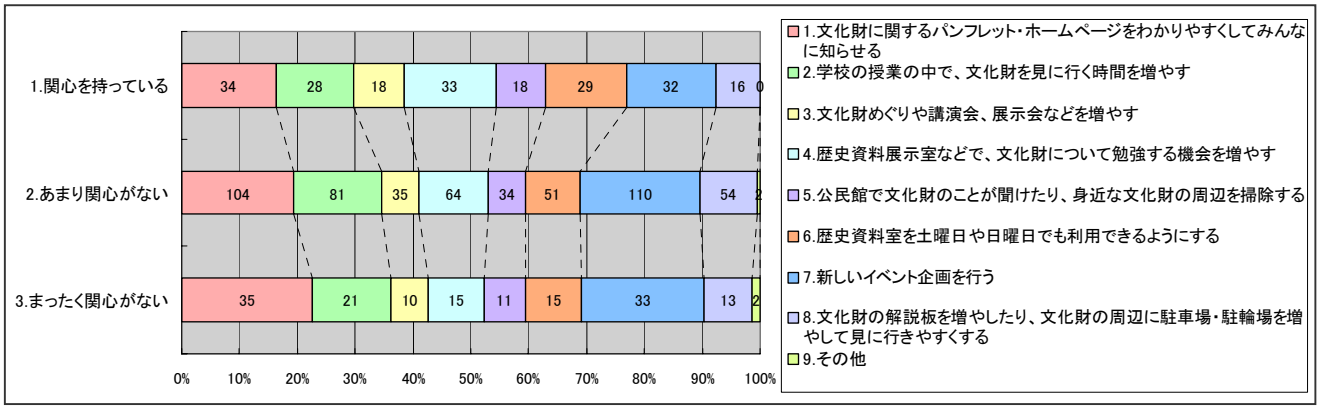


小学生と中学生は、よく似た分布となりました。

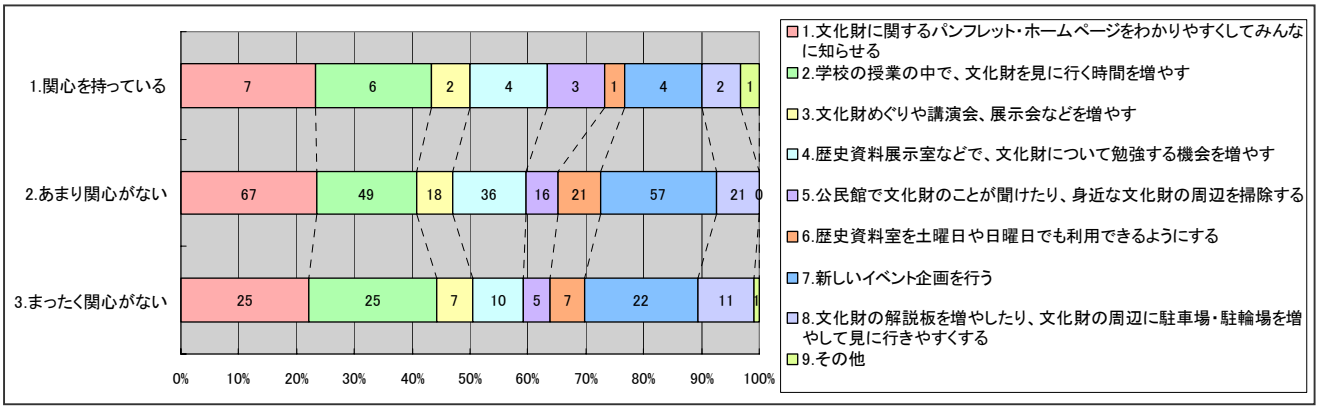
「あまり関心がない」の回答者に比べ、「まったく関心がない」の回答者は、その具体的な理由よりも単に「関心がない」の回答が増えています。

３．質問４の「文化財の関心度」について、質問１０の「必要だと思うこと」の内訳比率を見ました。

小学生



中学生

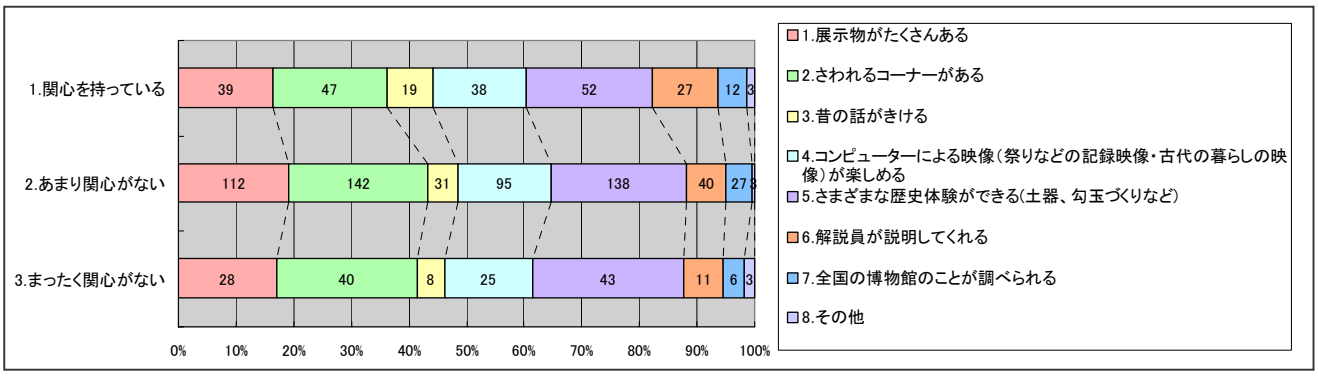


小学生の結果は一般市民の結果と似ており、文化財への関心が低い回答者ほど、とりあえず「文化財紹介」を望む傾向があり、やはり勉強会の類を敬遠しています。

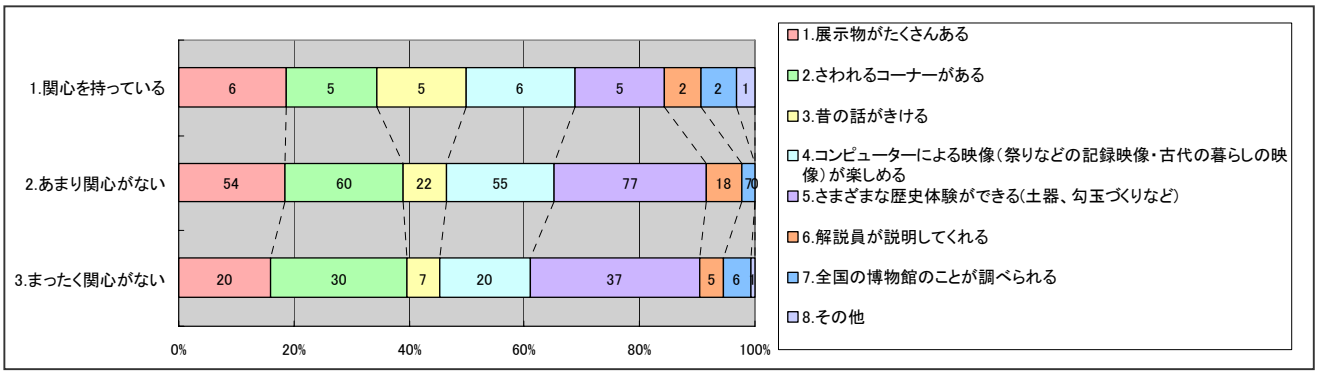
中学生の結果は、関心のあるなしに関わらず、回答の分布に大差はみられません。

４．質問４の「文化財への関心度」について、質問１３の「将来の博物館への要望」の内訳比率を見ました。

小学生



中学生



小、中学生とも、文化財への関心が低い回答者ほど、さわって体験できるアクティブな機能への要望が高い傾向があります。

また同時に、教わったり学ぶことへの敬遠がみてとれます。

ただし関心の高低によって、回答の分布に大差までは生じていません。